

THE AGE

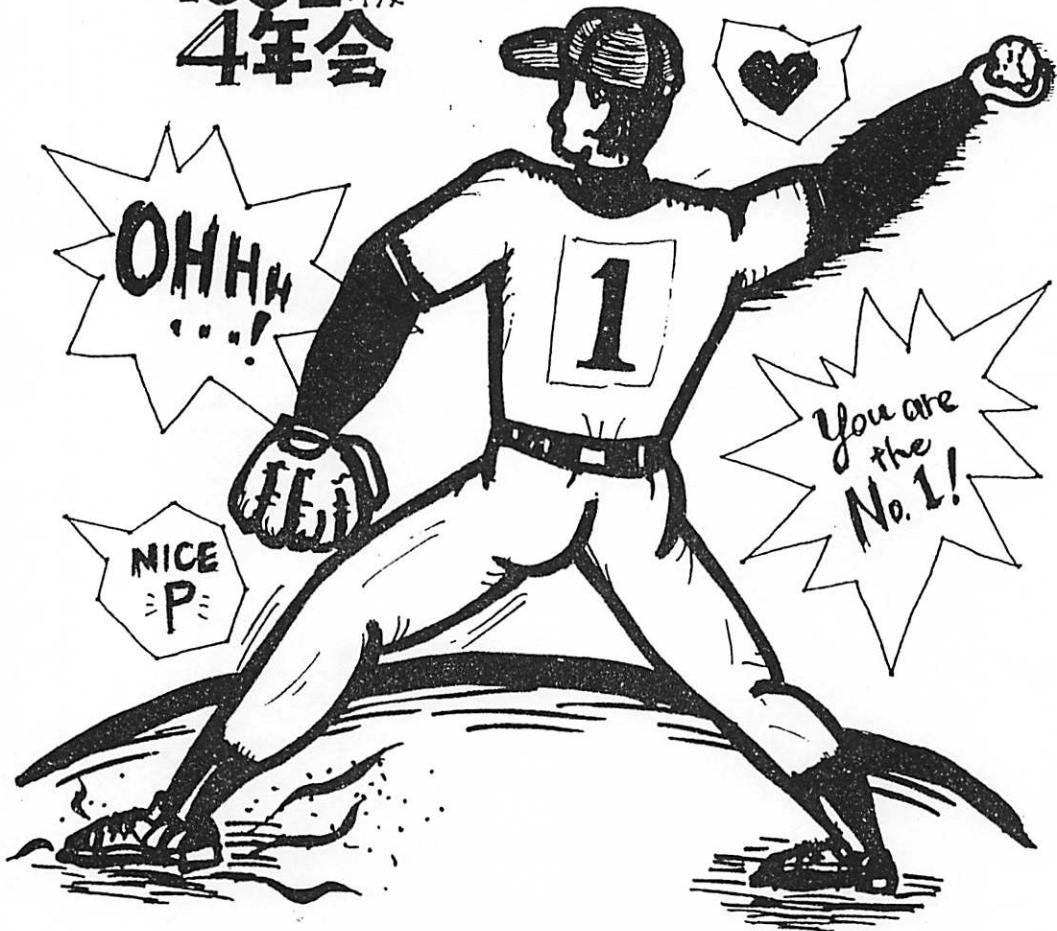
1991

早稲田大学文部会

Vol.33

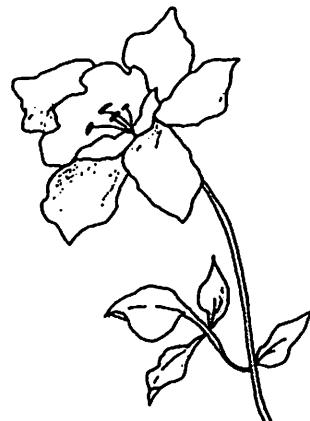
ACE

1992 年度
4年会



目 次

- 1.はじめに
2. Greeting
- 3.活動報告
4. WE~~S~~年表
5. Section 報告
 - Drama
 - Debate
 - Speech
 - 大隈杯



7. 91年度WE~~S~~幹事
8. WE~~S~~用語集
9. 卒業文集

6. 大夏特集
 - 紹介
 - 先駆隊
 - 班王歌
 - コスチューム
 - ~~秋~~ 報告



はじめに

昭和天皇が崩御された年、僕達はWESSに入部し、皇太子殿下が婚約発表された今年、僕達はWESSを去ることになりました。

本当にあっという間のこの4年間を振り返った時、WESSでの楽しい思い出や、輝かしい記録は、写真や資料でいつでも振り返る事ができますが、それらを支えているたくさんの出来事や愚痴は、僕達の心の中にしまわれて、各人の新しい歴史の中に埋もれてしまうかもしれません。

今年のエースは例年と趣向を変え、僕達が思ってきた“ありのままの事実”を載せてみました。僕達のWESSのいい面、悪い面のそのままの記録です。帰宅時間が遅く、御両親になかなか御理解頂けなかった女の子、バイトもできず資金繰りに四苦八苦していた下宿生、それが正解かわからず滯っていたマネージの辛い日々の一瞬一瞬が、完璧でなかったにしろ僕達なりに精一杯WESSの伝統の一頁、僕達の人生経験の一部をつくりあげてきたことに間違いありません。

人それぞれESSについての苦労、失ったものは数限りないと思いますが、それを乗り越えて僕達が大学生でしかできなかった事、咲かすことができない花を咲かせた事を後輩達に残し、そして今の皇太子殿下の時代がきた時、僕達が思いかせるような文集にこの本がなればと思っています

早稲田大学英語会 5役総務 松尾 周臣

J. MATSUO
S.G. of wess '91

GREETINGS

It is a great pleasure to offer my greetings to the Ace Private.

Go back to 1992 ; the Earth Summit in Rio de Janeiro proved that environmental problems can no longer be solved without international cooperation ; the Olympics in Barcelona showed how wonderful it is when the world gets together. Nowadays people in the world have been more and more required to think of everything in a global point of view. Japanese people have to make clear our position and make our own thoughts understood. Communication skills in English, which is a common language in the world, are very useful for us to take our responsibility in the world society. Our dream is to be a person who can bridge the world.

Now we are about to leave W.E.S.S. We have tried hard to reach our goal and made very much efforts to improve our communication skills in English. There was development of ourselves, such as cooperative mind, responsibility and independence, in our W.E.S.S. activities. When we find ourselves none of W.E.S.S. members, we can't help feeling something missing.

But please remember what your SENPAIS have done for you. For the last four years, they have always encourage you without words. You often recognized the ideal of W.E.S.S. in their activity in the real society, for example when you attended TOMONOKAI or when you visited OB and OGs for employment. They are something like a shining star in the night sky.

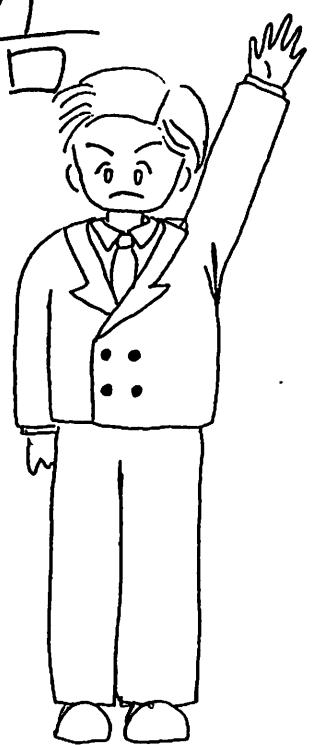
Now it's our turn to play a role to be a shining star for our KOHAIJS. It doesn't matter what kind of work we will do. The important thing is for us to continue to have the dream that we have had and try to realize it in your own way.

W.E.S.S. has always assumed the responsibility of university students in the real society. That is why it has 90 years' history and more than 200 members. In order to hand on the torch of its history, we should prove that the dream of W.E.S.S. comes true. This is what only graduates can do. Ask not any more what W.E.S.S. has given us, ask what we can give W.E.S.S. from now on. Then W.E.S.S. will be an unchangeable treasure for us.



1991年度早稲田大学英語会 五役幹事長 遠藤 幹夫

活動報告



1991年度 早稲田大学英語会活動報告

対外リーグ [3年生のみ]

☆ Debate

前期

◎K.U.E.L. Spring Debate Tournament

土屋 喜嗣・山口 恵未；1st Prize

水川 晃・車 昭人

◎Japan National Debate Tournament

大野 畏・中山 高志

◎T.I.D.L. Debate Tournament

相原 隆司・吉田 武平；8th Prize

◎East-West Debate Tournament

相原 隆司・吉田 武平

後期

◎Hokkaido Debate Tournament

水川 晃・車 昭人；1st Prize

◎Sophia Invitational Debate Tournament

相原 隆司・吉田 武平；2nd Prize

◎みちのくNABA Debate Tournament

吉田 武平・土屋 喜嗣

鹿島 秀一・水川 晃

◎K.E.L. Debate Tournament

相原 隆司・車 昭人；3rd Prize

◎All Japan Debate Tournament

土屋 喜嗣(Best Debater)・山口 恵未; 3rd Prize

鹿島 秀一・水川 晃

◎NARA Debate Tournament

吉田 武平・土屋 喜嗣; 8th Prize

☆ Drama

後期

◎4大学英語劇コンテスト (Manuscript; Arsenic & Old Lace)

English Prize; WESS

Best Player Prize; 渡部 修[Hortimer Brewster](K-1)

Outstanding Player Prize; 飯塚 友子[Abby Brewster](K-1)

福森 潤[Jonathan Brewster](J-1)

* Managing Staff

Producer 遠藤 幹央

Stage Manager 藤沢 裕一

Sub-Stage Manager 吉岡 正晃(K-2)

Director 鹿島 純子

Assistant Director 浜田 亜希子／菅井 香織／佐山奈穂子(M-2)

Public Information 渡辺 康仁

Set Chief 松尾 周臣／ Set Assistant Chief 野村 崇

Property Chief 高橋 淳二

Sound Chief 山田 隆史

Light Chief 佐藤 文則 Light Assistant Chief 高橋 晶子

Costume Chief 荒木 研史郎 Costume Assistant Chief 辻 淑子

Make-up Chief 高梨 真由美

☆ S p e e c h

前期

◎East Japan Speech Contest

森 春菜／沼口 麻子

◎茨城キリスト教大学学長杯

石崎 政信／杉山 泰生

◎同志社大学新島杯

青木真理子

◎明治大学S T E P 英語会和泉杯

井上 敦子

◎福岡教育大学学長杯

銘刈 一郎； 1st Prize

◎一橋大学ホールマン杯

森 春菜

◎ホノルル市長杯

遠藤 幹央／浅川 尚子

◎文教大学小尾杯

北沢美美代

◎明治大学三上杯

佐藤久美子

◎青山学院大学大木杯

上條 俊一； 2nd Prize

◎下関市立大学学長杯

多田 友彦

◎愛知県立大学学長杯

栗山 元子

◎毎日杯

生垣 勉

◎京都外語大学森田杯

沼口 麻子； 2nd Prize／坂本千津子

後期

◎K E S S A 杯

青木真理子；3rd Prize／沼口 麻子

◎独協大学天野杯

森 春菜／生垣 勉

◎甲南オーブン杯

北沢美美代；3rd Prize

◎国際英語弁論大会

中山 高志／銘刈 一郎

◎東京電気大学丹羽杯

前原 明尚

◎W E S A 杯

佐藤久美子

◎和洋女子大学学長杯

青木真理子

◎聖学院大小田杯

豊田 成穂；4th Prize

◎南山大学ヒルシュマイヤー杯

森 春菜

◎高崎市長杯

杉山 泰生；2nd Prize

◎国際武道大学松前杯

北沢美美代；1st Prize

◎法政大学P E S 杯

前原 明尚

◎東西6大学英語弁論大会

佐藤久美子；1st Prize／生垣 勉；3rd Prize／

橋木 学(M-2)；5th Prize

Society Prize；W E S S

- ◎明治大学学長杯
浅川 尚子；3rd Prize
- ◎工学院大学学長杯
中山 高志；4th Prize
- ◎茨城大学学長杯
多田 友彦；1st Prize
- ◎法政大学工学部長杯
豊田 成穂；4th Prize
- ◎亞細亞大学太田杯
石崎 政信
- ◎明治学院大学竹中杯
銘刈 一郎；3rd Prize
- ◎立命館大学末川杯
杉山 泰生；2nd Prize
- ◎慶應大学福沢杯
沼口 麻子
- ◎立命館大学理工学部杯
栗山 元子
- ◎創価大学創立者杯
多田 友彦
- ◎東京国際大学金子杯
坂木 千津子
- ◎神奈川県知事杯
中山 高志
- ◎神戸市長杯
多田 友彦
- ◎日本女子大学上代杯
沼口 麻子；3rd Prize
- ◎All Tokyo Speech Contest
佐藤久美子

◎横浜市長杯

浅川 尚子

◎大隈杯

佐藤久美子：1st Prize

内部活動

3月：◎Home to Home Debate

Home Meeting Prize; 新宿IIM

Best Debater; 岩田 充康 (Sj-2)

上野 和彦 (A-2)

4月：◎ハワイ遠征

団長 遠藤幹央

代表 日置 千尋 (K-2) / 高田 豊彦 (K-2)

甲斐 講平 (Sj-2) / 津田 一史 (A-2)

◎Oral Recitation Contest

2年会 男 女

1st 玉城 満寛 (Sj) 安田 浩子 (Sb)

2nd 日置 千尋 (K) 佐山奈穂子 (H)

3rd 小松 敦 (A) 決得 依子 (Sj)

1年会 男 女

1st 永井 直樹 (Sj) 岩尾 順子 (K)

2nd 関 一朗 (Sj) 山北美由紀 (Sj)

3rd 島田 直治 (A) 長嶺 祐子 (A)

5月：◎Championship Debate Tournament

1st Prize “黒人と白人再び” Team

土屋 嘉嗣(Deb) · 大野 昇(Deb)

2nd Prize “かんぶくす” Team

遠藤 幹央(Cha) · 相原 隆司(Vice)

5月： 3rd Prize “人喰い男と女王様” Team
水川 晃(Deb)・山口 恵未(Deb)
3rd Prize “くるくるPMA” Team
中山 高志(PMA)・車 昭人(Deb)
Best Debater; 甲斐 講平(Sj-2)

◎Jr. Speech Contest

Home Meeting Prize; 新宿HM
1st Prize 森山 明子(Sb-2)
2nd Prize 築瀬 操 (Sb-2)
3rd Prize 野地 将司(Sb-2)
4th Prize 甲斐 講平(Sj-2)

◎4大学Jr. Speech Contest

Society Prize; WE S S
1st Prize 森山 明子(Sb-2)
2nd Prize 野地 将司(Sb-2)
3rd Prize 甲斐 講平(Sj-2)

6月: ◎Drama Festival

Home Meeting Prize; 新宿HM
Best Actor/Actress Prize
木下 達哉(A-1)／稻森 潤(J-1)／大熊 達哉(J-1)／
渡部 修(K-1)／山北美由紀 (Sj-1)

7月: ◎大夏合宿（於野尻湖湖畔）

9月 : ◎All Waseda Speech Contest

- 1st Prize 生垣 勉 (Sp)
- 2nd Prize 佐藤久美子(Sp)
- 3rd Prize 安田 浩子(Sb-2)
- 4th Prize 森 春菜 (Sp)
- 5th Prize 山田 隆史(Tre)
- 6th Prize 橋本 学 (H-2)

◎早慶 Speech Contest

- 1st Prize 佐藤久美子(Sp)
- 5th Prize 橋本 学 (H-2)
- 6th Prize 安田 浩子(Sb-2)

◎Extemporaneous Speech Contest

Home Meeting Prize; 新宿IIM

◎Joint Extemporaneous Speech Contest

- 2nd Prize 野地 将司(Sb-2)
- 3rd Prize 篠瀬 操 (Sb-2)
- 4th Prize 安田 浩子(Sb-2)

10月 : ◎Jr. Inter Debate

Inter Debate

Home Meeting Prize; 新宿HM

Jr. Debate

Home Meeting Prize; 高円寺IIM

Best Debater: 甲斐 謙平(Sj-2) / 木村 匡宏(K-2) /
上野 和彦(A-2) / 立井 尚友(K-2) /
菅野 和之(Sb-2)

11月 : ◎4大学英語劇コンテスト

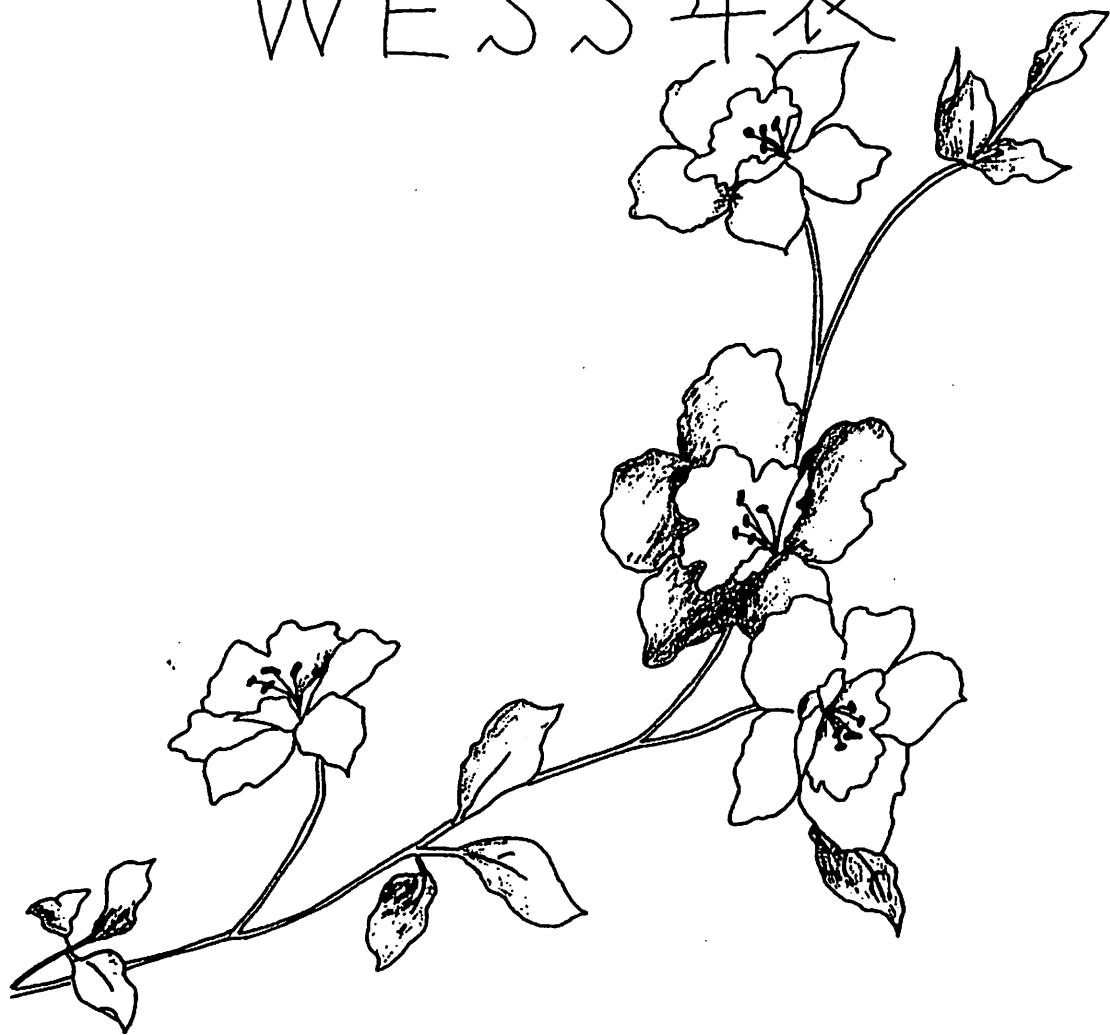
12月 : ◎大隈杯

1991年度企画管理

中山高志

Takeshi Nakayama
P.M. st. of WASS
'91

WESS 年表



～わたしが作るWESS年表～

1989年 晴れて入学。ピカピカの一年生・・・

4月 ○新宿HM、新歓コンパに一年の女の子一人も来ない事件(武平)

○ふたばでコンパ。バユバユを見てうるさい女だと思う(淳二)

○Welcome Party開かれる。先輩たちの凄さに皆ア然(えみ)

○久美&まりコンビの出会い(まり)

○熱意のかたまり大木氏に勧誘され入部を決意(前原)

○東後先生、オラコンのジャッジにみえる(沼口・幹央)

5月 ○藤沢と『なぜFinalistになれんのじゃー』と叫ぶ。後に理由判明(淳二)

○オラコン、新宿HM優勝(武平)

○上條、オラコン一位で華々しくデビュー(上條)

○松尾、たくあんは大根から、あげは豆腐からできていることを

知らなかった、という事実が判明。高円寺の女の子一同ア然(坂本)

○浜田、中央線の窓から『From A』の看板見て『あれ、知ってる！何の

デパートだっけ？』・・・(松尾)

6月 ○ドラフェス・渋谷HMは40人近くの大所帯(ふみ)

○Best Actor 河西・Best Actress わかめ(まじょみ)

○星さん、「与作」で恋をする。おかげで翌日の僕の誕生日は

メチャメチャ(淳二)

○城北HMでトランプ大流行(イケ)

7月 ○渋谷HM一年会、九十九里・ディズニーランド一泊ツアー(秀一)

○上記イベントで初めて男の人が毛深いことを知った(久美)

○エンタテ大会、Best Actorをもらう(淳二)

○中橋、ノート・座布団・椅子まわしでデビュー(ノムノム)

○山田の作詞の班歌が一位に輝く(沼口)

8月 ○渋谷HM小夏、阿蘇くん"具"が出ちゃった事件(秀一)

○同小夏、バハラのカップルを発見(まじょみ)

○城北の小夏で喫煙をしのちゃんに見つかり『半年間口をきかない』刑
をくらう(サル)

9月 ○城北HM・出席率が高かったのか、エクステンボでまさかの

プライズ獲得(イケ)

- 10月 ○ Deb のリサーチをサボって、みんなに内緒で六本木のダンバに行く(上條)
○ 山田と藤沢のチームのケースがすごかった(坂本)
○ Jr. Inter-Deb. 新宿 IIM 優勝(武平)
○ Jr. Inter-Deb. 後の打ち上げで二田さんに来年 Deb の IIM Prize 全部とると
大ボラをふく(秀一)
○ 四大、第一回ステリハをブッチャーして調光から外される。第二回ステリハ
で文則、馴れ馴れしく近寄ってくる(秀一)
○ Set sec. 員、さし入れの味を覚える(ノムノム)
○ 四大 Sound で初めて KIM のスタジオに泊まる(前原)

- 11月 ○ 文則、藤沢に1000円で買われる事件(文則)
○ 四大、最終日にしてようやく時間内に収めることに成功(えみ)
○ 小久保、恋をしてコンタクトにする(松尾)
○ 四大で抽象セットを試みる(幹火)

- 12月 ○ 山田と藤沢が坊主頭になる(研史朗・幹火)
○ 文則のうちで X'mas パーティー男五人、
松尾・X'mas 火踪事件 in 横浜(文則・淳二)
○ ウセしらでバイトしていることが五役にバレ、退職依頼をうける(サル)
○ 渋谷 IIM スキーツアー・岩窟で私はスキーの虜になった(久美)

1990年三 WESS にも慣れてきたところで二年会・・・

- 1月 ○ 豊田とインスペで50人の大部屋で歌いあかす(中橋)

- 2月 ○ 藤沢とバレンタインデーにインスペに行く(淳二)

- 3月 ○ 滝近くの岩山にて遭難する(前原)

- 渋谷の春合宿でまりちゃんがバトミントン大会で優勝(久美)
○ II to II. Deb. の直前、渋谷は他の IIM の嫌われ者となる(久美)
○ II to II. Deb. 渋谷 IIM. 他 IIM の卑怯な渋谷包囲網にも拘わらず、ハワイ
など眼中になく見事に IIM. Prize !! (秀一・ふみ)

- 4月 ○ 中山、ハワイで乱行をする(サル)

- 松尾の恥ずかしいエール発表。『でいやーうす!!』っていうの、
やっぱり恥ずかしかったわ(坂本)

- 5月 ○このころ、地下食でごはん・みそ汁110円のわびしい昼食(ノムノム)
○キリスト寔教師の黒人DJ学館に毎日現れる。なぜかバスケの特訓を受け、
そのかいあってか大夏のポートホールで優勝する(イケ)
○新宿HIMオラコンでHIM Prize(武平)
○上條、逆オラコン一位で再デビュー(上條)
○Freshman Discussionですることもなくブラブラする(前原)
○Model Play "The Wall" Boy役のまじょみはラインを16もぶっとばした
のに誰も気付かず(まじょみ)
○長谷川君のビール一氣飲みのオマケつき(えみ)
○早慶戦、2戦目勝利し、3戦目も観るために渋谷のみんなのお陰(淳二)
○Championship Deb. サル&しゅうチームAD Growthをひっさげてまさかの
プレラン落ち(秀一)
○副幹大脱走(研史朗)
○えみさんならちゃんコンビ、チャンピオンシップ決勝へ進出(沼口・久美)

- 6月 ○ドラフェス、エンジ、Prizeを逃す。が、藤沢、リフレクで『完璧やった』
と言い、五役候補から外れる(淳二・藤沢)
○早慶戦優勝、コマ劇前の噴水から落ち、全治2週間(前原)

- 7月 ○山田・相原・中山・生垣・鹿島・吉岡・遠藤・森・文則・
溝淵・吉田による最強のディベパンs結成される(武平・秀一)
○大夏エンタテ、おじょうデビュー(まり)
○岡安先生、エンタテで5秒モンゴリアンを演じる(文則)
○小久保・パパP、ラクダだと判明(文則)

- 8月 ○渋谷HIMの小夏、三日目の夜、操・チャコ弟子入り(秀一)

- 9月 ○ケロとたつ弟子入り(秀一)

- 10月 ○学館の渋谷HIMの席に『リサーチしない奴、ブッ殺す』の
貼り紙が出る(武平)
○渋谷HIM、『獲物は太らせて食う』と『Jr. 絶対勝つ』宣言(秀一)
○Jr. Deb. 坂本千津子と稻村紀子の熱き女の闘いを見る(淳二)
○Inter. Deb. で城北が渋谷に負ける(サル)
○Inter. Jr. Deb. 渋谷HIM Prize!!
渋谷HIMの黄金時代ここに閉幕(秀一・ふみ)
○Public Debateの大会が催される。木井・中山・吉田組は
3位に終わる(武平)
○四大まで二週間弱、ものまねsection結成(まじょみ)
○土屋はSetになかなかでてこれなかったが、来たらパネルの後ろに○○○
の絵を書いて帰っていった。つちやー(松尾)
○松尾によって、スマーカーであったことが発覚する(幹央)

- 11月 ○つとむ君、文則んちの襖に穴を開ける(秀一・サル)
 ○度重なる湯木氏、道を間違えて志木から帰れないよ事件(淳二・イケ)
 ○四大、演技達者な山田・小久保は難無くクリア(えみ)
 ○W E S S、四大でGrand Prize受賞(銘刈・おじょう・前原・坂本・ノムノム)
 ○文則んちでのナベ集会このころから始まる(イケ)
- 12月 ○パパ白で目玉君、ガマンできなくなった事件(秀一)
 ○マネージで前歯折って、クリスマスを祝う(研史朗)
 ○マネージさぼって目玉君宅で遊んでいたら、亮さんが来ちゃった事件(秀一)
 ○新3マネージでスピーチの意義が決まらずハラハラ(沼口)
 ○新お茶の水でつとむ君、大事なときに足がつっちゃったよ、俺の青春を返せ事件(秀一・文則)
 ○なぜか、加勢大周に似ていると自称する者増加(久美)
 ○『おまえは女の子とチャラチャラやってて満足か』の遠藤発言、裏目でちゃうよ事件(淳二)
 ○中橋、キムラの最後の話し合いの後『イブは男と40Pや』とつぶやく(文則)
 ○渋谷HIMスキーツアー in 万座(前原)

1991年三 そして、いよいよ激動の三年会・・・

- 1月 (くうはく。マネージづかれ?)
- 2月 ○俺の二十歳の誕生日(秀一)
- 3月 ○新三合宿で中橋、ガラスに激突(中橋・久美)
- 4月 ○スクリプトやっと決まる。『なんか怖いよ』ワタちゃん発言。一転、純子の『すごく面白いスクリプトなの』で決定(淳二)
 ○山口・土屋チームKUEL SPRING DEBATE TOURNAMENTで財前氏以来の決勝進出、優勝(武平)
 ○中国語の単位取得不可能を再々再度悟り、中退(藤沢)
 ○勧誘もそこそこに四月試験に苦しむ(前原)

5月 ○ 大夏先発隊'91(鹿島・渡辺・大野・生垣・水川・文則)、
ここに正式結成(秀一・文則)

○ J N D T 大阪遠征、くるちゃんワインで酔っ払い役に
立たなくなった(サル)

○ J N 遠征、大阪城せっかく来たのに閉まっていた事件(秀一)

○ オラコンの打ち上げコンバで Sp. sec 員は無類のカラオケ好き、という事実
が判明。一人ひとりがきちんと得意の持ち歌を持っていた。上條くんの
『19時の街』、くみちゃんの明葉メドレー・・・etc すごい(坂本)

○ Jr. Speech の打ち上げコンバ『与作』で Sp. sec 員みんな切れる。
『ちょっと聞いてよ!』と叫んだあつんの歌を拝聴する(沼口・久美)
○ オリエンの後のコンペキを歌わない一・二年生が続出。
ショックを受ける(幹央)

No. 33

(42)

6月 (なぜか空白。みんな何やってたの?)

7月 ○ 先発隊出発、ワタちゃん中央高速でフェラーリを負かす(文則・イケ)

○ 先発隊ワゴンを中央高速上で約15分間居眠り運転。他の隊員はこの事実を
野尻湖にて知らされる(秀一)

○ 先発隊、月見酒 at 野尻湖桟橋(文則)

○ 先発期間中に三回(晃)

○ 大夏、三年会の一日の平均睡眠時間は3時間以下とも(えみ)

○ 大夏登山、理子救出作戦(まり・ノムノム)

○ 中橋・上條・あつん、米国へ旅立つ(ふみ・上條・おじょう・中橋)

○ 四大オーディション、応募者よりも熱心に稽古をする
ドラセク団(まじょみ)

8月 ○ きんとまじょみ、俺が滑れかけ、助けを求めてるのに『ハーイ』と、
ゆっくり足こぎボートを漕いでいる。俺は彼女たちに全然わかって
もらえてないと悟る(松尾)

○ 学館、新しくなる(おじょう)

9月 ○ イケちゃん、ALL WASEDA Finalで優勝(久美)

10月 ○ 吉川・相原チーム S I D T に於いてアームズ・好一郎さん以来の
決勝進出、準優勝(武平)

○ Jr-Deb. 立井みづから脳死となりスタッフ、パニック(サル)

○ Jr で高円寺HMがHMプライズ獲得。新宿HMの独占阻止。
感動的な Awarding だった(幹央)

○ 東北N A F A. 川田氏に水川、English "ゼロ"をつけられる(秀一)

○ 東北N A F A. 山形駅からのタクシー中、運ちゃん我らのブリーフバック
を見て、『なぁにい～、持ってきたんだああ? コメかあ～?』(晃)

○ ALL JAPAN DEBATE TOURNAMENT の予選で、対戦相手の獨協のチーフに
見とれてパートナーの鹿島に迷惑をかけるが、結局Growthで勝つ(晃)

○ 東京電機大学丹羽杯出場(沼口)

- 11月 ○四大終わって、事実上引退(文則)
○四大、奇跡の3分搬出(ノムノム)
○四大、『商売繁盛』という言葉どおり、イングリッシュ、アクター・
アクトレスプライズ、ゲット。あれ、グランドは? エフェクトは?(淳二)
○A L L J A P A N, 結局suppliment通過通知なく、
この日、引退決定(水川・秀一)
○松尾、救急車のお世話になる(文則)
○法政大P E S c u p出場(沼口)
- 12月 ○大隈杯、久美ちゃん見事優勝(ふみ・銘刈・まじょみ・研史朗・
おじょう・沼口・イケ)

Section 報告



— Debate Section 紹介 —

W E S S Debate section '91(WASEDA STRATEGIC DEBATE FORCE' 91)は、女子大の子を見るとすぐに調子の良い言葉をささやく八方美人・相原隆司(General Manager)、ディベートのラウンドになるとパートナーを怒鳴りつけ、怒りまくるがファンも多いオタク・土屋喜嗣(今やNAFA副会長)、いつも『ふざけんな水川』とかツッツ言いつつ、後輩の人望が厚い鹿島秀一(Chief conductor)、キムラでの合宿ですぐ銭湯に山掛ける山口恵未(TIDL涉外)、いつまでもキムラに金を払わない水川晃(会計)、『またリサーチかよチキショウ!』と言いながら、良くリサーチする車昭人(文連委員)、Deb.secに来るとやたらゴキゲンになる中山でゴザール(前期のみ)、というワガママなメンバーを純真・誠実で謙虚な吉田武平(Chief)がまとめるという状況であった。

Deb.secはIt toll Debate Tournamentのマネージを鹿島大先生お得意の仕切りでとっとと終えた後、すぐさまトーナメントが始まり、リサーチして全他大学の対策を練り、大会前夜には毎週キムラに泊まり、好一郎さん・ヤナバさん・アラブ・・・などの先輩の指導のもとブリーフを打ちまくり、予選では出場者はとにかく対策の立っている大学と対戦し、それ以外の人はディスパッチをして、それをまとめ次週の本選に備え、次の大会の出場者は他大とHome(練習試合の意)に出掛ける・・・という、のんびりした今日このごろではまったく考えられない戦場のような毎日を繰り返していた。

W S D F '91は伝統の必殺技DA Growth、ついに完成したDA Business Confidence、無敵の『がん告知』Case等で重装備し、肩凝りする程の重いブリーフを鞄につめてトーナメントに挑み、前期はKUEL優勝、JNDT全国予選へ出場(関西遠征)、TIDL・Best 8、後期は北海道杯優勝、SIDT準優勝、KEL・3rd、ALL JAPAN・3rd、NAFA Best 8とコンスタントに好成績を残し、NAFA(ディベートの団体組織)からは"Best Squad"とまで評された。

結果だけでなく、他大学のチーフにうらやましがられたのは、
WESSは個人技だけでなくsectionで勝っている、ということである。
確かに個々人のディベートの能力に拘る所もあるが、それだけで勝負し
ているのではない。Section全体でストラテジーを練り、リサーチを
分担し、大会前夜に出場しない人が徹夜でブリーフをつくる・・・とい
うWESS一丸となって、勝負だけでなく理想のDebateを追求していく
ところがWESSのアイデンティティであり、それを受け継いでみんな
頑張ってきたと思う。 WESS Debate Sectionに栄光あれ！！

ディベート・セクションチーフ
吉田 武平

‘91 KUEL FINALを振り返って

DEB SEC 山口 恵未

いまだに自分があのFINALの舞台にのっていたとは信じられない時がありますが、今思い出してもワクワクするできごとでした。あの時はなにかに守られているかのようにすべてうまくいってしまって後悔などしていたらバチがあたりそうです。が、ひとつだけ、どうしても改めたいのがThanks wordです。

あの時はあまりに意外なことにThanks wordが必要なことに気付いたのが舞台にあがってから、という状態でした。Deb. secのみんな、先輩のおかげでFinalに残れたのに。だから、この場を借りて本当にありがとうございました、といいたいです。みなさんのお陰でFinalが経験できただけでなく、一年間続けることができました。特にパートナーだった土屋くん、どうもありがとうございました。KUELでThanks wordが言えなかつたのがずっと気になっていました。

FINALもうれしいけれど、去年なによりうれしかったのはjudgeのかたに“今年のWESSは本当にいいセクションになったね”という言葉。このセクションにいれて本当に良かったです。

< Dra. Sec. 紹介 >

毀譽褒貶

<一世風靡>

幽玄の芸術家	荒木 研史郎
豪氣な宗主	遠藤 幹央
懊惱せる女優	鹿島 純子
放蕩する智者	佐藤 文則
お口の恋人	菅井 香織
幻世の巨人	高橋 晶子
快楽の道化師	高橋 淳二
純潔なる脱獄者	高梨 真山美
踊る吟遊詩人	辻 淑子
明哲の貴公子	野村 崇
鈍なる駿齋	浜山 亜紀子
優しい賛人	松尾 周臣
夢現の傍人	山田 隆史
過激な神	藤沢 裕一

<近衛兵>

妖艶な J.O.E	吉岡 正晃
-----------	-------

<鎮魂歌>

汚れた聖人	河西 岳
寂寥の仙人	小久保 卓一

<子羊>

永遠に迷い人	鹿島 秀一
--------	-------

年々歳々花相似たり

年々歳々人同じからず

1991年1月 Dra-Sec 91' 発足。
もうあれから二年経つ。 . .

私の回憶籠には余りにも多種類の面相が描きこまれている。中に有名、無名の墓標が入り乱れ、記憶の靈園は限り無く広い。ノスタルジックな暖気流に身を任せ、徒に、仲間たちが創った華々しい物語を個々に披露するを一案するも、他項に各人作成の個人史がぎらりと並ぶとなれば、それらの密な景色の前に、私の描く遠目の疎な個々の絵巻物などは色彩負けすること必定である。なれば、皆の心情を代表できる仮想△君、を主人公として、「あの集団」を平面的に語らせることに、このスペースを使うことも担当筆者の裁量内として赦されたい。 . .

今になってやっとだが、私の「あの集団」での体験は、最高級とはいわぬまでも、おおいに貴重な精神的財産であった、と思えるに到った。財産目録には、人間の逡巡、卑怯、傲慢、軽率、詐術等、同時に、人間の決断、勇気、謙虚、慎重、誠実等が載っており、それらの現実性、及び可能性を他人のうちに、そして自分のうちにみた。こうした人間の様々な二面性が目眩くかたちで眼前に、あるいは心奥に繰り広げられるのを私はみた。自分の見たものの本体についてまだ明確に認識もできず表現もできなかたために、かつての私は苟立ち、疲れていた。私にもっと能力と経験があったならば、自分のみた人間の二面性をより鮮やかに感受し、そこでよりダイナミックに生きることができたのであろう。が、私の有した少しばかりの人生哲学なるものも、名ばかりのもので、つまるところ未熟だったのである。私は一時、それらの経験自体を猛烈に悔いたし、自分を責めもした。しかし、「あの集団」で経験したある種の「馬鹿騒ぎ」めいたものに、人生を賭けるような気質から私は今も自由になれないであり、私に成熟なり賢明さなりの訪れがあるとすれば、その宿命としかいいようのない自分の精神の勾配を丁寧に測定するところからしかやってこないのであろう。

創造と破壊という自己解体の過程における測定作業は、なおこれからも延々続く。

そう、もうあれから二年経つ。 . .

藤沢 裕一

Speech Section 紹介

スキーから帰って来たとたんに激しい腹痛と下痢に襲われ寝込んでしまい、おかげさまでフラフラクラクラしながらこの Sp Sec 紹介を書いています。

さて、Sp Sec 紹介ということですが、'91のSp Secは、例年になく sec 員の数が多く、かつ優秀、有能な方々が多かったという感想を持っています。みなさん、御自分の仕事をきっちりこなし、それぞれに納得のできる結果を残されたことだと思います。

また、スピーチは、他活動に比べて、一人で行う部分が多いのですが、'91のsec員はそれぞれ協力し合って、素晴らしいスピーチをつくりあげ、また、その過程で素晴らしい友情をつくりあげていくことができたのであります。社会人になっても、WESSで得たものを大切にして生きていって欲しいと思います。

以上が簡単でしたが、'91 Sp Sec 紹介です。乱筆乱文御容赦下さい。

SPEECH SECTION CHIEF 森 春菜

大隈杯

ESSスピーチ界では4大スピコンの一つで「スピコンといえば大隈杯」と言われる程メジャーなスピコンが、WESSが主催する大隈杯です。私たちの代で18回目を迎え、91年の12月14日(土)に開催されました。

大隈杯では全国150の大学ESSに参加を募り、本選では12名のスピーカーが自分の最高のスピーチを持ち寄って競い合います。7分間のプリベアド・スピーチと4分間のQAだけで競う、というのが大隈杯の特色です。

その年に作ったスピーチであれば未発表既発表かは問わないので、スピーカーは自分の自信作を応募します。開催時期も12月中旬と大学ESS主催のスピコンのラストなので、12名のスピーカーも更にスピーチに磨きをかけ、披露されるスピーチはどれも完成度の極めて高い洗練されたのものばかりでした。

18回の大隈杯では、WESS代表の佐藤久美子さんが見事優勝し、大隈杯を手にしました。

「日本一のスピコンを開催しよう」これが、春に決めた18回大隈杯のコンセプトでした。スピーチのレベルだけでなく、コンテストのマネージメントにおいても日本一をめざそう、という気持ちから出たものです。インナースピコンマネージの体験に限らず、他大オーブン大会のよい点をセク員みんなが積極的に集め、大隈杯の参考にしました。実際に会場の大隈講堂を使えるのは大会当日だけだったので、ミスのないようにセク員全員でキムラでの合宿を行い、大会の進行や役割分担、ケース・スタディを何回も検討し直しました。大会が近づくにつれてみんなのテンションが高くなっていくのを感じました。

大隈杯に携わって印象深いのは、大隈杯に対するみんなの思い入れです。大会を成功させるぞというスピセク員の姿勢、全国の大学生スピーカーの出場への熱意、オーディエンスやスピーチ界関係者の注目度は、大隈杯に特有なものだと思います。なんといっても暖房のきかない大隈講堂に400からのオーディエンスが集まることがそれを物語っています。

大隈杯に携わることができて、ラッキーだったと思います。今後、大隈杯が更にレベルの高いインパクトを与え続ける大会になくことを願ってやみません。

大隈杯実行委員長

生垣 効

Study

I fulfilled my 2 big duties of study section last year. Firstly, I published, "Study manual". This manual explained the way of pronunciation of English. It provides members of WEES with the most important basic ability. So I hope it'll be published with any improvement.

Secondly, I made the plan and manage "Study time in Big Summer Camp". It consists of listening study with pamphlet and "All English Time". I put stress on explaining about the way to study listening because I hoped the members continued to study for themselves.

By the way, I thank the seniors for your help, especially Mr. Tada, Mr. Yamada, Mr. Matsuo, Mr. Meikari, Mr. Junji.

Lastly, I must apologize to Mr. Matsuo for breaking my word. I said to you I would make a new plan of study when I took Study Chief. But I couldn't do so. That is only regrettable fault.

I am thankfull that you gave the chance of acting as a Study Chief to such a dull man, me.

Affectionately yours

Ayanori Sato

アヤノリ サトウ

No. 33

91

大夏合宿特集



大夏合宿紹介

ま、大夏のイベントは毎年意義からおろしていってイベントの内容に行き着くので、毎年に変化していいはずです。なのに毎年変わりません。それはなぜか。端的に言えば面白いという固定観念があるからでしょうね。とはいってもこの大夏は実によく出来ているのをみなさんご存知ですか。毎年ラインナップはスタディ、焼飯大会、オリンピック、ボートレース、エンタテ、3レク、班歌大会＆キャンプファイアー、大コンパということになってます。

まずWESSだからスタディをするんだけど前期と後期の間に行うから、夏休みに自分の学習能力を見極めてステップアップするためにベーシックスタディをするんですね。それでイベントになるんですが、焼飯大会では主に女の子が腕を発揮できる場、オリンピック、ボートレースは運動能力を発揮し、エンタテでは班でみんなの知恵を出しあった成果を発揮して、この時点で班としてのまとまりを完成させるわけです。それで、他班の人間と親しくなれない分を、3レクによって補い、幅を広げるのです。最後に班歌大会＆キャンプファイアーでWESS全休のまとまりを完成させるわけなのですよ。

こう書いてくると読んでる人はつまらないと思うのでこのへんでやめますが、他にもいっぱいあって、考え方抜かれた大夏だからこそやはり楽しいのです。そして考え方抜かれたこの合宿に接したときにWESS90年の伝統の重みを感じますね。

もし、会社とかでイベントをうとう、といったときには大夏を思い出して利用してみてください。89年のPMAである河村さんが日テレに入社し、新人社員が仮装をして箱根から東京まで歩き抜くという番組をやっていました。きっと彼が案を出して仮装したものと私は信じて疑いません。

そうです、大夏は企画の宝石箱なのです。そしてもっと言うと、年間プランにもまとまり曲線というのが存在するんですよ。新歓から始まり、大夏、四大、大隈杯でまとまる、といったことですね。大夏は年間プランの一部であり、かつ縮小版でもあるんですよ。

だからWESSでやってきたこと、大夏で楽しかったことを是非使ってみてください。それらが使いこなせたときに、私たちは「WESSをやっててよかった」と心から言えるのではないか、と偉そうなことを書いてつまらない能書きを終わります。

大夏合宿実行委員長

高橋淳二

大夏合宿・先発隊を代表して

『しゅうちゃん、大夏の先発隊引き受けってくれねえか?』

『えっ? セ・ン・パ・ツ・タ・イって何?』・・・

三年会になったばかりの三月、淳二から依頼されて初めてその存在を知った。何度か淳二に断ってみたものの、何の根拠もなく彼が自分を高く買ってくれていたのに乗せられて(あれが本心からか、単なるオダテだったのかは未だ定かではない)、紆余曲折を経て、結局、大夏先発隊'91に仲間入りさせてもらった。

それから2ndインスペを経て、七月の本番までは本当にアッという間だった。その間、段ボール一箱分の引き継ぎ書類、秒分刻みのレジュメ etc、『先発隊』なるものをナメきっていた自分の幻想は次々と打ち砕かれていった。そして、本隊合流の前日、7/26の夜・・・

『いよいよ明日だな』

『みんな、一・二年生大勢連れて来てくれるかなぁ』

『明日からは戦場だから、今夜はたっぷり眠っておけよ・・・』

野尻湖の水面に映える月の光を肴に、桟橋でささやかな酒宴を6人で囲んだ。何の話しをしたのかは覚えていない。だけど、大学時代あとにも先にもあんなにウマイ酒を飲んだことはなかった。思えば先発期間プラス大夏本番の9日間は発見とショックの連続だった。好きなだけ車を使わせて頂いた上にガソリン代ひとつ請求しない宮川のオカミさん。店頭値3000円の特大スイカを僕らの汗に免じて800円にまで下げてくれた八百屋のおじさん。『今年も頑張って』と、かき氷を御馳走してくれた弁天島売店のおばちゃん。などなど、他にも見えない所で自分たちを支えてくれた様々な人達の温かさが言葉にできないくらい嬉しかった。そして、何といっても先発隊の仲間達・・・

影の黒子に徹し、けれど下級生の前では疲れた素振りひとつ見せずに、班長以下班員たちの笑顔に目を細めていた5人。あのとき彼らが本当にいい男に見えた。と同時に他の5人と比べて、レジュメ遅れの元凶だとばかりに班長のみんなに腹を立てていた自分の『小ささ』がショックだった。この場で正直に告白します。僕が『隊長』などと偉そうな(?)名を冠されていたけれど、実際にやった仕事は先発期間の4枚のレジュメと3日目の夜に先発隊のみんなのパンツを洗濯機で洗ったことぐらいなのです(あついにバラしてしまった)。9日間ずっとみんなの後についていくのが精一杯だった。

登山登頂にすべてを賭けていたワタちゃん。ハイクをつまらないとは言わせない、とばかりに新ルート・企画を練っていた大野。夜通しでstudyパンフ作ってた文則。必死でロープの結びを覚えていたイケちゃん。火文字に油を浸け過ぎた見。そして、秘かに大夏成功に自信を無くしかけていた弱気などおくびにも出さずに一年生に冗談を飛ばしていた淳二。彼らを含めた三年会みんなの何げない仕草から感じるひたむきさのお陰で、何とか自分も先発隊、そして三年会'91のスタッフの一人としてやり通すことができた。

一・二年生を黒姫駅で見送ったとき、なんだか、初めて三年会がひとつになれたような気がした。『だいなつ』『はんか』『のじりこ』これらの単語は我家のワープロでは一発変換できません。このことは、裏を返せば他の誰でもない、この自分を含めた限られた仲間のあいだでしか語ることができない思い出のkey wordであることをも意味するでしょう。

大夏は懲りもせずに、毎年同じ企画で行われます。これをマンネリズム、と一言で片付けてしまうあなた。『それを言っちゃあ、おしまいよ』などと、柴又の寅さんみたいな突っ込みはしませんが、それは、夕陽に向かって『何で沈んじまうんだよお！』と、叫ぶ愚行に似ていて、いとをかし。あなたは甘い・青い・めでたい、と三拍子揃っています。大夏は、微妙に、しかし、決定的に毎年違うのです。それは一見、セブンイレブンに行ったら、いつもは『六甲のおいしい水』があったところに、今日行ったら『100%ポンジュース』が置いてあった、というような微妙な違いなのですが、しかし、その違いには大きな、そして決定的な意味があるのです。

あの大夏ははたして成功だったのか、否か？ この答えは僕ら自身が出せるものではありません。しかし、僕はあの大夏は成功だった、と確信しています。誰が何と言おうと絶対に。その理由・証拠はあるのですが、敢えてここでは挙げません。ただ、成功だった、とだけ言っておきましょう。

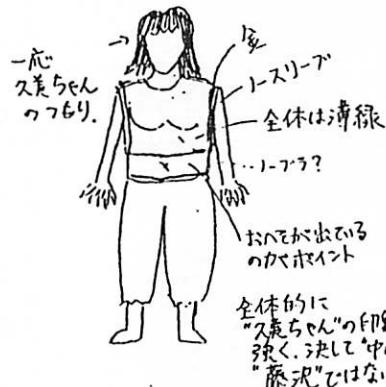
鹿島 秀一

～ 大夏コスチューム結果発表 ～

大夏では様々な洋服が誕生しました。坊さん・天使・月光仮面・蝶・ミッキーマウス・・・WE S S ブランドは以下の通りです。
尚、松は淳二が書いてくれました。

大夏コスプレ集 — Everybody, Dance Now! —

1位 2年会 5班王



2位 1年会 6班王



3位 1年会 4班王 4位 2年会 クラス王



1位 3年会 5班王



大夏班歌の統計は、やはり僕達の三年会の歌の1989年度・6班の班歌が一位、1991年度・5班の歌が二位でした。

◎ 1989年度優勝班歌 6班

作詞・山田 隆史

街のはずれの湖のほとり 優しい月は全てを地上に捧げてる
ブルーのワーゲンの中でひとり
月の光をすいこみながら 静かに夢を見るのさ
君に出会った瞬間 缶ビールを持つ手が震えていたよ
夢中になるのに時は少しもいらなかつた
街路樹にとまる天使たちにまぎれて
君は一体 どこにいるのだろう こんなに素敵な夜なのに

湖水に映る七色の光 ガラス細工の雨ははかなく光って消えてゆく
冷たいポンネットの上でひとり
都会のざわめきから逃げ出し 静かに空を見るのさ
花火のはかなさのような きっと真夏の夜の夢であるのに
心の中では分かってるつもりなのに
地図も時計もすべて置いてきたままで
君は一体 どこへ行ったのだろう 車の音もない夜なのに

重そうな月が沈む頃 光の粒が大地に果てしなく降り始める
青い湖のほとりでひとり
冷たい夜にさよならしながら 静かな輝きに包まれる
忘れかけていたよ こんなに激しい心のときめき
君に響かせたい この胸の想い
果てしなく拡がるこの光の海の中で
君は一体 どこを泳いでるの 素敵な朝がやってきたのに

◎ 1991年度 優勝班歌 5班

作曲・佐山 奈穂子
作詞・佐山 奈穂子

肌けたシャツが 風に波打つ
目を細め 亂れた髪をき上げる
その手が好き その髪が好き その背中が あなたが大好き
知り合った頃は あなたに恋をするなんて 思いもよらなかった
私が臆病だったから でもあなたに教えられた
人はこんな気持ちに なれるといういうことを
愛するということは 心が透明になること
透明になって すべてを包むこと
愛するということは 何もいらなくなること
ただ木漏れ陽が そよぐ風が 愛おしいこと
あなたの匂いの中で 私は生きてゆきたい
絹糸一本 縋わない 生まれたままの心で

今日もあなたは 私の横で
いつもの たばこに火をつける
その手が好き その髪が好き その背中が あなたが大好き
愛するということは 心が透明になること
透明になって すべてを包むこと
愛するということは 何もいらなくなること
ただ木漏れ陽が そよぐ風が 愛おしいこと
あなたの匂いの中で 私は生きてゆきたい
絹糸一本 縋わない 生まれたままの心で
絹糸一本 縋わない 生まれたままの心で

大夏合宿1989年度 8班班歌

作曲・吉岡 嶽

作詞・荒木 研史朗

遠い太古の熱い心が 今僕らの胸に呼びかけてる
ナウマンゾウのいたころ 風はなんてささやいてた?
君と僕 ここにいるってことは 現在にいるってことじゃない
満天の星を眺めながら 肩を寄せて座るふたり
こんなふうに こんなふうに ここに誰かが座っていたかもしれない
草笛を吹きながら

遠い太古に置いてきたものを 今わたしはあなたと搜す
ナウマンゾウのいた頃 波は何と言葉を交わした?
あなたと私 ここにいるってことは 現在にいるってことじゃない
紺碧の空を見上げながら 腕を組んで歩くふたり
こんなふうに こんなふうに ここで誰かが歌っていたかもしれない
草笛にあわせてね

遠い太古のすてきな贈り物 今何を言っても聞こえない
ナウマンゾウのいた頃 夢はいつも七色の光
昨日と今日 出会ったものは 明日への道しるべさ
緑の冠を頂く湖に 輝くかざりのダイヤモンド
こんなふうに こんなふうに [誰かが踊っていたかもしれない
ほほ笑み交わしながら

大夏の想出の班歌特集

(大夏、2年、5班)

1 瞬く星にさそわれ
二人は真夜中のハイウェイ
昨日までの騒めき
まるで嘘のようさ
微笑んだ君の横顔に
愛を囁く僕だけ
洒落た映画の台詞も
この星空にはかなわないね

2 流れ星に願いかけて
二人はみつめあう
二度とは来ないこの時を
心に深く刻む
二人は湖の畔で
この歌を口ずさむけど
洒落た甘い LOVE SONG も
この星空にはかなわないね

I LOVE YOU 大きな声で
* 今なら言えそうさー
FAR AWAY 星空のステージへ
夏の主役は二人なのさ

* REPEAT

ずっとこのまま居れたらと
君の涙がひかる
二人はきらめく星屑に
真夏の愛を誓う

だから涙は星空にあづけ
二人で走りだそう
この空に誓った愛だけは
誰にも邪魔させない

* REPEAT

(2年、1班)

あ～ああああああ～

(2年、2班)

好きさ～ 笑顔～

(2年、3班)

青空、吸い込まれる
その青はどこまでも
自分を感じながら、
身を草原に横たえ
そんなに淋しい顔をして、
君は何処にいくの
描いてた夢、忘れないで
君は木陰で、膝を抱えてる。
溜め息こぼしてる。
その涙、拭いて立ち上がりよう。
一人じゃないから、淋しくないはず
笑顔想いだすまで
いつも、そうさそばにいるよ。

(2年、6班)

マドラス・チェックのペアルックが
駅のホームで笑いながら
僕に気づかずに通りすぎる
僕はベンチで一人
君が笑って僕に振る麦藁帽子
二人並んで撮ったあのスナップ写真
朝の夜は全てを包み込んで
淋しくないのにどうして涙が出るの
また君とあえるはずなのに
汽車に乗った君に何も言えなくて
思わずうつむいた
あの夏の想出と来年またこの場所で
SEE YOU AGAIN

大夏”おもしろ丸秘”事件集

ノムノムやっておしまい（高晶）

一年の大夏7班のエンタテの時、文ちゃんがムチをふって、“ノムノムやっておしまい”と言った事件。ちなみに、あのセリフをやらしたのは、高晶であった。

大夏デビュー、その後（文ちゃん）

期せずして大夏デビューを、果たした文代さん（当時18歳）は、帰りの電車の中で、現在渡米中の吉原氏に そのベルトの意味を教えられ、その事実に強いショックを受けた。そしてその後、口数も少くなり、急に黙りこくれてしまったのを、周りにいる人たちは、気づかなかつた様子。しかし、その目は、うるんでいたかも・・・。

そして、家に帰るなり文代さんは”WESSやめる”と大泣きに泣いて、家の者を驚かしてしまうのであった。兄（当時早大空手サークル副幹）は、“どいつだ。ぶっとばしてやる”といきりたち、文代さんを、更に泣かせる事態に陥ったのである。（本人談、当時の自分ってかわいいな。）

三年の5班のエンタテの佐山（高晶）

“黒人やめられないわ、ジユル”は最高。

三年のときの林田（高晶）

“ダッダーン”とエンタテで踊った場面。

相原のドライブ、そして、夜のダンス（高晶、前原）

夜に、相ちゃんの運転で、みんなと運動場に行った時、対向車と接触して、サイドミラーが飛び散った。その後、グランドで暗い中”だるまさんが、ころんだ”や、フォークダンス（オクラホマ、ミキサー、マイムマイム）、山の手線ゲームなどなどをした。結構もりあがて、おもしろかった。

トロちゃんの灯油いれ焼き飯事件（山口）

2年のヤキメシ大会の時、同じ班のトロちゃんが誤ってサラダ油の変わりに灯油を、材料を炒める時に、使ってしまった。一口で、あれを飲み込んだ河村さんは、本当にえらい人だと、その後、味をみて思いました。

まりちゃんが、真夜中、奮闘して班歌をつくっていたこと（山口）
まりちゃんたち、パンクの2班の人たちは、朝4時まで班歌の歌詞を作っていた。（ちなみに、メロディーを作ったのは、晃）

ヤナバさんのハンカチ事件（山口）

2年のオリンピック大会の借り物競争のとき、借り物は、班長（ヤナバさんのハンカチ）と書いてあった。急いでヤナバさんの所にいたら、ヤナバさんはハンカチを持っていなかった。いきなり自分のナスの衣装を、ビリビリと破き、その布切れを”ハンカチだ。”と言って、渡してくれた。

淳二の”一生のおねがい”（まじよみ）

登山隊が大変な時、トランシーバーが混線。宮川にいた淳二君は野尻湖に向かって大声で”秀ちゃーん、一生のお願い。トランシーバー使わないでー。”と。登山隊と連絡とりたいのは分かるけど、宮川からいくら大声だしても、ボート隊には届かないよ。

しのちゃんの鞄を取りに行くため、車を走らせた渡ちゃん（まじよみ）

電車の中に、一人鞄を忘れて、半べそ状態のしのちゃんのために、車を走らせて、鞄を渡ちゃんが取りに行った。

けーちゃん対杉山の半分眠り状態からの大暴れ（あやのり）

大沢さん、ポートボール大会で、反則タックルで人々に怪我を負わせる（あやのり）

淳二君とのボート相乗り（真理ちゃん）

ボートといえば、二人組。二人組といえばコミュニケーションが大事なのに、淳二君は、ひきつった顔で、ボートを懸命にこぎ、全然楽しくなさそう。そのうちに、私とではなく、他のボートにのっている人たちと、話はじめ”こんなに嫌われていたのかー”と傷ついた私でした。今は、そんなことないことを祈ります。（淳二 照れやだから。そんなことないと思うよ by koh）

・ 91年大夏での松尾の女装（吉田）

大夏オリエンを目の前にしたある夏（それも試験中）の班会、班長たちは班長エンタテが、何も決まらず頭を悩ましていた。すると遠藤 幹央は相変わらず脈絡もなく、突然”竜宮城みたいのをやろう。”と言いました。他の班長たちは、”遠藤そんなのつまんないわ。”と思いながらも、他にいい案も思い付かず、それになった。そこで、竜宮城で踊る二人の女装役が、必要となり、一人はミーティングを遅刻した相原に決まり、との一人は、ジャンケンで負けた松尾になった。しかしながら松尾は、本気でいやがり、”女装するぐらいなら、エンタテでない”などと、わがままを言い出した。その意志は固く、どうしようもなくなり、藤沢の”武平でええやんけー”の一首で硬派の私（吉田）は女装するはめとなった。しかし、因果応報、天罰が下った。数週間後、コス發表で松尾は看護婦さんの格好をさせられ、オリエン一日どころか、大夏中女装するはめとなった。 メデタシメデタシ

弁天島の前原石像（前原）

弁天島の石像が、私（前原）にそっくりと指摘された。ただそれだけ。でも写真はあるよ。

スペシャルランチの謎とけが人（中橋）

時は四年大夏の最終日、そうスペシャルランチの日であった。すぐ調子にのる私は、それはもう言葉に絶する作品を、みんなで作り上げた。そして、被害者は、エルウッドこと”サワ”。食べる前から彼は、弱氣で吐きだす場所を探していた。一階の、大部屋経験者の私は、”そんなもん、窓の外に出て、はきだしたらえんや”と、無責任なことを言う。何故か安心したサワは、スペシャルランチを食う。2秒ほど不思議そうな顔をしたサワは（きっとセイロ丸が聞いたのであろう。）窓をめざし、そしてJump。外にでるはずだったサワは、何故か跳ね返ってしまった。窓がしまっていたのである。彼は血を吹き出し、また辺りはガラスだらけになってしまった。つまらない助言をした私は、罪の意識でおしつぶされそうだった。ゴメンナサイさわ。

しかし、一体聞いていたはずの窓はどうしてしまったのだろう。そしてサワが吐きに行った口の中身はどこにいったのだろう。誰も知らない2つの謎である。

おじょう、”浅川パンク養成所”でデビュー

2年の大夏のエンタテでおじょうが迫真の演技で、パンク養成所の教官をえんずる。（真理ちゃんもそうである）

渡ちゃん崖をおりる（晃）

3年の大夏インスペで、渡辺と僕は、インスペ登山の帰り、道に迷ってしまった。しかし、一本道を降りてきたはずで、何処で迷ったのかもわからずとりあえず、降りて行った。そのうち、道もなくなり、急な崖にぶちあたつたのである。しかし、渡辺はなにを思ったのか、その崖をくだり始めたのである。そして、いったのである、"晃、おまえも降りてこいや"。ただ僕は死を覚悟して降りるしかなかった。（結局、途中で引き返し無事に降りれた）

遠藤スイカを野尻湖におとす

一人はりきっていた幹央が自らスイカを蹴飛ばしてしまう。

クルマ、やけど事件（浅川、栗山）

クルクルが四年の大夏で余った花火をもらってきて、バハラの小夏で再利用したところ、既にしめっており、なかなか引火せず、火がついたと思ったら、服に飛火して"アチアチ"とのたうちまわった。そこで、一句、
"不発弾の 花火のごとき 運命か"

クルマ小金（こがね）事件

クルクルが学館によくきて、後輩におごっていたらしい。そのことを、ある後輩が私に"クルマさん、最近 こがね 持っているらしですよ。"といった。こがね、というのがなんとなくクルクルらしい。そこで、一句、
"四年間 金と女に 恵まれず"

藤沢が班長のくせにミーティングの最中にフロにはいったこと（藤沢）

渡ちゃんワゴンで180km、赤いボルシェとゼロヨン事件（先発隊一同）

先発隊で、黒姫に車で向かうとき、渡辺が高速道路を平均時速180kmでふとばした。乗っている他の先発隊は、こわくて寝ることもできなかった。
(しかし、大野一人寝ていた。)

先発隊で晃ヌク（鹿島、渡辺）

本人は記憶がない。

先発隊、みんながくる前にパンツをあらう（渡辺、晃）

淳二、スタディー中、綿にくるまって寝る（鹿島、晃）

中山タメ口事件（中山）

千鳥が渕の、ボートの練習の時、一緒に乗っていたタムタムにむかって、タメ口でしゃべりつづけた。

高晶”あら、あなたたちも濡れたの”事件

高晶が、女子一人、グランドのテントのかたづけに行き、濡れてしまった。そして、帰ってくるなり、他の女子に向かって”あら、あなたたちも濡れたの”と言い、消えてしまった。

幼稚園児と遊ぶ中山（浅川、まじよみ）

行きの電車で、幼稚園児と仲良くなかった中山君は、体中にクレヨンでいたずら書きされた。

カマメシ事件（坂本）

相原君は、”かまめし”を買いに行った際に4つ分のお金を払ったのに、3つ分しか貰えずに、電車はgo。ひたすらくやしがっていた。

火文字の点火そして花火（晃）

先発隊6人で、やっとできた火文字に点火する時、”先発隊”とかけ声合わして火をつけるはずだった。しかし、一旦たいまつに火がつくと、あまりの熱さにかけ声をかける暇なく、てんてんばらばらに、火をつけてしまった。池ちゃんにいたっては、”あちーいよ”とたいまつの火を、ふりまわし、鹿島を焼き殺そうとした。

またそのあと、先発隊は、打ち上げ花火を上にあげるのではなく、みんなの方に向かって打ち上げていた。この事を、一番楽しんでいたのは、渡辺である。

We love big Summer camp...

構成、タイプ 水川 晃

1991年度WESS幹事

幹事長	遠藤 幹央	DEB CHIEF	吉田 武平
副幹事長	相原 隆司	DRA CHIEF	小久保卓一
総務	松尾 周臣	SP CHIEF	森 春菜
会計	山田 隆史		
企画管理	中山 高志		

RECREATION	高橋 淳二	OKUMA TROPHY	生垣 勉
STUDY	佐藤 文則	T. I. D. L.	山口 恵未
P.R.	藤沢 裕一	四大学	渡辺 康仁
international	河西 岳		杉山 泰生
稻門会	遠藤 繁		後藤 崇輔
文連	車 昭人	K. U. E. L.	多田 友彦
H.M.C.	佐藤 久美子		田中 裕之

秋葉原	龍 玲子
城北	小須田英和
高円寺	堀川 博光
目白	斎藤 満智子
渋谷	伊谷 良太
新宿	田中 俊輔

1991年度 5役総務 松尾 周臣

J. Matsuo.
S. Go of wess'91

WESS用語集



新WESS用語辞典 91 花の迷・珍発言集

時代と共にWESSを取り巻く環境も言葉も色々変わってきたているようです。学館のクーラー、カレー・コーヒーのみからランチまで食べられるようになつたポンツ、学生ホールから第二学生会館へ移転したマネージの場、また学館のおばちゃんetc.この企画は僕たちの時代がこれらの移行をどうとらえ、また、どのようにかかわってきたかを残すために設けました。

ア行の言葉

《AVACO》

最近いっちょまえにコマーシャルをやっている。さんざん定員オーバーで使用してたんだから、結婚式場使って貢献してあげたらいかがなもんでしょか。

《アプリケ》

application の略。スピーチやディベートの大会で自分の都合の良い時間帯を決めセクション員に申し込むこと。アプリケが遅れると、Sp Secアプリケ係の銘刈君が本当に大変そうだった。

《あるやんか～》

こうのしゃべり方。

《アングラ》

WESS用語でもないかも知れないけれど・・・。秘密裡に事を進めること?!誤解なしに行うこと。

《いたつき》

演劇用語が転じたもので、手拍子一つで自分が赤の他人になる、或いはなつと信じること。一度体験するとそれなしでは再び舞台に立てなくなる恐れのあるもので、WESSに独特に伝わる。

《いちもつの不安》

歴史：92年大夏の引継ぎ時に、ポンツノート上にて、考案者、河西岳氏。
用法：可愛さをもつ少女に何事かを託す時、「少々心配だな」という気持
ちを込めて用いる。状況設定としては、あくまでもごつつい山男が、いたい
けな女子に対して、という点が必須である。

《イレレ君》

前原のこと。

《インスペ》

合宿や、大会会場などの下見

《WESSバッジ》

早大英語会会員である証し。訳の分からぬ一年生はフレ・ディスのまえに買わされる。

《ウニる》

歴史：誰からともなく。

用法：多義語である。我がドラマセクションにおいては、高橋晶子がこの状態の火付け役となることが多かった。話が混乱状態になること。

《「え～～～？ 小会議室～～～？」》

S p S e c のミーティングを開く際、希望の中会議室がとれなかつたとき聞かれる声。溜め息まじりにいうのがミソ。

《Everything is not unique》

昔、どんなDAでもNot UniqueになるEvidenceがあったとさ。それをさ、水川君がさ、Everything is not uniqueといったのさ、それを好一郎さんがさ、「じゃ、Uniqueじゃないのか」といったのさ。ちゃんちゃん。

《エリミ》

スピーチコンテストの予選

《円陣》

四大には欠かせない。朝・本番前／後・解散と1日4回もある。sectionごとの円陣を合わせたら、一体、何回円陣をつくるのでしょうか。OBになつてもこの辯は抜けず、道端でも駅のホームでも所構わざ円陣をつくってしまう。迷惑な私たち。

《エンタテ》

自分を捨てれば、新たな自分と巡り合える。しかし、しばしば、めぐりあいたくない自分に出会ってしまう。

《大隅講堂のおじさん》

大隅講堂利用の際は、おじさんの細かな注文にも快く耳を傾ける姿勢が大切。決して面倒くさがってはいけません。でもlightは何故舞台美術研究会に頼まなくてはいけないのであろうか。謎は深まるばかり。。。

《おじょう》

浅川尚子女史のあだ名。今までいろんなひとのあだ名を聞いたが、これほどピッタリのものは無いと思った。

《おとめ》

よっちゃんしか使わない、松尾のあだ名。由来は、松尾が乙女座であるところからきた模様。類義語におとめ～るもある。

《オフセット》

Debate用語?????

《お④④こ》

文則の虫、淳二の寝屁、銘刈の「ごめん」、山田のキャッチポン、多田のデート、水川のフトン、松尾のラグ、藤沢の18cmコックピット、淳二の小夏の足のニオイ、文則の公園のポン屁、生垣のマネージの手。

■ 力行の言葉

《学館の机とおばちゃん》

次々とものが消える不思議な机。まれに、昔なくしたもののがここから出てくることもある。また、ここのおばちゃん、本名、福本節子さんは、WESSの母的存在であり、WESSの人間関係、その他の情報を誰よりも早くキャッチ。その洞察力は人生経験の賜物。1番のお気に入りはちかちゃん。

《カッサー》

俺が2番目に嫌いな言葉。

《合宿》

WESSで合宿といえば、よるも寝ないでマネージ、スタディにあけくれるのが常識。それゆえ、女子にとてはこの合宿がWESSへの登竜門。メークもおとした顔で男子と雑魚寝なんて。。。女、やめますか、それとも、WESSやめますか」という言葉はまさにこの合宿のためにある。

《カロリー》

そのままですが、店の名前。

《ガンバレSbブリーフ》

例年、Jr-Inter間近になると、天からSbIIIへと舞い降りてくる。でも、とっても強いブリーフ。

《勧誘》

大学の各サークルが4月上旬に行う好みの新入生を求めての争奪戦のこと。男性には色仕掛けで女性には爽やかさでアプローチするのが普通。相手を選ばず頭数でキャンパスを荒らす団体としてはESSと心霊研究会が有名。

《気合いであたらない》

Deb Secが、このままの状態だとWESSが負けそうな相手チームに対する必殺技。

《キムラ》

「セミナーハウス木村」のこと。某△娘の妹さんが所属する明大ESSでは、「木村屋」というらしい。冷暖房完備と看板にはあるのに、コイン式クーラー。しかも、45分で切れてしまう。

・《きむらのおばちゃん》

某△つんは、1年程、おばちゃんが、シャブを打っているとマジで信じていたらしい。

《今日は合宿なので～～は帰らないといってました。》
歴史：91年夏

用法：ここにK島J子という女性がいるとし、同じセクションに属するJ氏がいるとする。彼（J氏）は彼女（J子）宅に電話をし彼女の母親にいわれる言葉。合宿などあるわけないだろとJ氏が心の中で叫んだのはいうまでもない。ちなみに、彼女の翌朝をグッドモーニングにするかバッドモーニングにするかは、ひとえにJ氏のこの電話の応対にかかっている。・。

《クエラー》
KUEL委員。広義ではKUEL専門委員も含む。KUELによってタダ働きさせられるハメになる人々。

《首振り人形》

オリエンの最後になると決まって登場。なかなかすぐ立たず、質の悪い人形でしたね～～。
《クリスマス》

12月25日。五役の誕生を祝う日。この日は夜明けと共に電話をかけまくり、できるだけ多くの人を集めねばならないしきたり。

《クレムリン》

早稲田大学の新図書館のこと。そこで1日中リサーチすることを「クレムリンにこもる」、または、「クレムる」という。お世話になりました。

《グルメセクション》

下宿者が一緒に食事をしていて、おいしいお店にこだわり始めたのがきっかけ。食を愛する人にその輪を広げた。

《KIM》

四大ドラマには欠かせないSoundのProです。ここの大長の沼さんには、色々とお世話になっていて、Soundの面々はかつてしばしば自由ヶ丘のスタジオでMixing合宿を行ったものでした。こここの猫は人懐っこいですが、人が疲れて寝ていても構わずちょっかいをだしてくるので、仮眠には要注意。

《見の女の口説き方》

な～～好きやんか～～

《国立国会図書館》

蔵書数No.1。DebateのEvidence探しで使います。しかし、閉架式で使いにくく、どこに何があるかすぐわかりません。また20歳以上でないと利用資格がないのも問題ですね～～。コピー代も異様に高いし、時間がかかるし、文句ばっかり。

《コスメ》

CostumeとMake up Sectionといえば、四大の華（？）。お菓子の差し入れが絶え間なく、女子校のように賑やか。でもお嬢様方に四大の厳しさを分かってもらうのは結構難しい。ちなみに、他大では、“メイコス”っていうんだよ。

◆ サ行の言葉 ◆

《The Wall》

WESS以外の女の子に説明するのは面倒臭いストーリー。（シーンが東・西ところころ変わるんだもん）でも10年後もまだこれやってそうな気がする。

《ざっくらばん》

周辺に聞け！（マネージの最中この言葉で進行を止めた。）

《佐々木 爪 鉄人 爪 セザール》

佐々木さんのこと。ちなみにDeb Sec'91にとっては1番ママ面倒見てくれた先輩。

《さわやかDeb Sec 作戦》

Deb Sec'91が、次の年にDeb Secに入る女の子がいないらしいというウワサを聞き付けて実行したキャンペーン。学館でスピーチ練習をやらない、ブリーフの入ったカバンを重そうに持たない、学館で疲れた顔をせず、楽しそうにDebateをする等の具体案が示されたが、さわやかなのはChiefだけで、失敗に終わった。ふううううううううううううううううううううううううううう。

《敵は太らせてから食う》
Sbl IIIの某名(迷?) Study Chief が Semi-Deb の敗戦の際にはいた負け惜しみ。

《鉄道研究会》
その電話への近さゆえに、必然的に電話番になってしまう、という第一学生会館にいるサークル。具体的な統計は出されていないが、W E S S が 1 番お世話になっていると思われる。

《テンパる》
キンチヨウすること。同義語に“まいあがる”というのもある。麻雀でもこの言葉を使う。周囲によると、“あがること”らしい。

㊣ ナ行の言葉

《中洞留美子さん》
独協大学 E S S の Deb Sec Chief。W E S S の多くの Debater が対戦したが、武平、土屋、山口、水川、車といった、Deb Sec のその大半が負けている。しかし、土屋の美しさのためか、負けてもだれも悔しまらない。さらにもう一つ、島は対戦して勝ったのだが、負けてもいい、と思ったそうである。ちなみに、現在は、淳二君が、彼女に盲目の恋に落ちてしまっている。

《ナンラオマエラー》

中山の喋り方。他に“ポンチョス”、“ポーチュアダプチョン”

《ねごと》
寝言といえば、A 女史。彼女は、ALI、WASEDA の合宿の時に、「めいくるじやなくてよかったです。」と夢うつぶに叫んだらしい。なにが、めいくるじやなくてよかったのだろう。

《のねこのみい いす おくあ》
Debate の試合中。INC が終わって、2AC だ。時間がない。できる限り、的確、かつ、短い言い回しでスピーチせねば。そこで、某アニキ、現在、M 物産マンの彼は、叫んだ。“No economy is occur.”。素晴らしい Word Economy だ。しかし、誰も意味が分からぬ。だからといって、誰も、このワンダフルな言葉を忘れることがなかった。今も、Deb Sec に受け継がれている。

㊤ ハ行の言葉

《はす》
理工学部生の間では、本部と理工キャンパス間を結ぶ無料の連絡バスの事を指す。90 分に 1 本で定員 20 数名。職員優先のため、乗れないことが多い。乗れないときもある。

《パッショーン》
遠藤幹央君に代表されるような、W E S S 活動にかける燃えるような情熱のこと。または、遠藤君、その人自身。

《Party men, Party》
91年のインターナショナルセクションのスローガン。未だ意味不明。考案者、河西岳氏。

《花束代》
後期対外スピコンに登場する際のセク員、あるいは、後輩の花束代をセク員が負担したもの。その額は一人あたり一万円は軽く超えるため、セク員には、辛いものがある。しかし、スピーチを終えた後にもらう花束にまた喜びはひとしお。

《華やかですね～～》
正装した Sp Sec 女子が皆で集まっているところを見た後輩諸君がいってくれた言葉。多分、皆、一生忘れる事はないでしょう。

《馬場白》
思い出す度に鳥肌の立つ、新 3 マネージの場。T 橋△子さんによると、このトライレは臭いそうである。五役にいわせると、こここの林というおんなのひとは、顔と態度の gap が寝いらしく。席が空きまくって、彼らをはじっこにおいこむ。今度あったら、○○○○してやりたい。。。なんていうのはま○お君でしょう。

《人食い》

ほかにもいろんなバリエーションがあるこの言葉だが、いわずと知れたあ
る男の異名。最近は「金食い虫」というイメージも強い。

《ファイナル》

スピーチ・コンテストの本選。または、ディベート大会での決勝戦。この
場で、先輩、セク員等の名を読み上げ、感謝の気持ちを表す、サンクス・ワ
ードはなかなかに、おつなもの。

《フジサワーーン》

△則が最もきら的な言葉。

《部室》

またの名を五役室。汚い、信じられないほど、汚い。五役の方々、ご苦労
さま。

《プライズ》

W E S S に負けず嫌いが多い事の象徴。プライズ獲得のために傾ける会員
の情熱は、美しくもあり、卑しくもある。

《フレスト》

Brain Storming の略。自由に意見をだしあうことによって、考えを整理す
るために行われる。この言葉を聞くと今だに髪がぐちゃぐちゃになり、びし
ょぬれになった人の姿を想像する人がいるとか。使用例としては、スピーチ
製作など。現在、世間で大はやりで、W E S S の先見の明にはびっくり。
《フレ・ディス》

Freshman Discussion の略。KUEL主催の各大学E S S の一年生の顔見せ会
のようなもの。毎年、遠くて、山の上の専修大学生田校舎でおこなわれるの
が悩みもの。

《ベスカラ》

学館近くのホカ弁屋のメニューの一つ。“多田氏”が食する事を好み、現
在では、両者はほぼ同義である。

《法商裏》

四大期間中閉じられ、皆、その門をよじ登る。かつて、大治郎が「おれも
おれも」といって、先を急ぐ者の後に続こうとしたとき「キャー」といって、
プロ場から水が飛んで来た。

4 マ行の言葉 ⑥

《マクトナルドの3階》

禁煙なので、Sp sec女子に好評の場所。お子チャマが多すぎるのが難点。

《まつお》

みちのくひとり旅→旅の終わりはお前→男と女→会いたい→夜明けのブレ
ス

《松の湯》

Dra-Sec の一合(AVACO)のお風呂タイムに皆で行った。また、山口さんに
も思い出の場所らしい。

《マメな人》

W E S S を支える人。

《丸橋さん》

Sp Conジャッジ。自らもK E S S 時代は、Debate、Speechで名を馳せた。
ロジカルな質問をとばし、ジャッジに「丸橋さん」の名があがるだけで、ス
ピーカーを怖がらせる人。

《マンガと長電話》

某Chairmanに聞くといいでしょう。

《みきおブリーフ事件》

89 四大ステリハで起こった事件。当時のコスメ員は知っているが、書き
たくないのであえて触れない。

《タヂカワ》

①アホの別称 ②三つ股 ③ゴリラと同義 ④Kは嫌い
《モリモリ、モリさんのお宅ですか。》
すぎやまに尋ねて下さい。

△ ヤ行の言葉 編

《やつぱー》
川法：胸天気な娘が天真爛漫に使う。久し振りにあった彼女（欣ちゃん一
仮名）に「よー欣ちゃん」と声をかけると山びこのように返って来る言葉。
「やつぱー元氣？」となって返って来る場合もある。今時用いる人がいな
いだけに新鮮味をもった言葉である。

《やるじよー》
歴史：91年四大学英語劇の直前数回のステリハで叫んだ人。当時のサブス
テ言岡氏。

川法：大円陣を組み、気合いをいれるために叫ぶ。すると自然に肩と腰と
脳の力が抜けリラックスした状態になり、眠くなる。ドラマセクションでは
マネージの時によく使い、以降、話の展開が滞ったこともしばしばである。

《横川の釜めし》

大夏の定番。買いただし部隊は5分ちょっとで買いに走らねばならない。

△ ラ行の言葉 編

《リサーチ》
図書館に生息するエビを捕獲する作業のこと。大人数による大規模な乱獲
のため、後には下線だらけになった本が散乱する。時には、本の紛失も見られ、席取りなどの環境破壊と合わせて、ESS界の大きな社会問題となっている。

《restrain》

ALL JAPAN DEBATE TOURNAMENT WESS-B チーム。昭和女子大のドラエもん
女に、このtopで引退させられる。

《リブレ》

"representative"なのにしばしば"depression"（ディブレ）と聞きます
がえてしまう。くみちゃんとふみちゃんのききまちがえと同様によく起きる。

《りゅう》

栄通りBJPの飲み屋。大隅杯の打ち上げに使います。店内はうちっぱなし
のコンクリート丸出しですが、鍋物、カラオケも自由というのがPointです。

《リリー》

広文堂で銅ってるいつも自販機の前にいた白いスピッツ。元子に似ている。

《レセプ》

スピコンの最後にある、本来はスピーカーがジャッジから個別にコメント
していただく場。大学によっては、手作りのケーキやおにぎりをだしても
なすところもある。

△ ワ行の言葉 編

《Y M C A 神田校》

マネージの時使った。見が値切ったらしい。

《ワシャ、しらんぞ》

ノムノムの喋り方。

《私はかわいいアライグーマ》

川法：黒い瞳がかわいいけれどもでかくてけっこういい男が振り付けて演
じる一芸。「かわいい」でグーに握った両手を擦り合せ「グーマ」でペー
に開いて大きく両手で内から外へ2つの円を描くように広げる。

おしまい

W E S S 1 9 9 1
D I C T I O N A R Y
K u R u K u R u

卒業文集



W E S S のみんなと俺

相原 隆司 政治経済学部経済学科
五役・副幹事長

時がたつのは非常に早い者で、もう卒業するなんて少し寂しい気がします。今、振り返ってみると僕の大学生活はW E S S一色だった。そういえば僕ははじめはドラマがやりたかったような気がする。でも三年会の時にはDebateをやっていました。思えば五役をやりながらDeb. Sec. をやってこれたのも他のDeb. Sec. のみんなのおかげである。

対外のDebateの試合ではFinal Roundの前に今までお世話になった人達に感謝の言葉を述べる機会がある。生憎、僕は2nd. Speakerだったので述べることができなかった。是非、今この場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。

まず、ご指導、ご協力してくださった諸先輩方に心よりお礼を申し上げます。そしてDeb. Sec. のみなさま、よくリサーチをしてくれたDeb. Sec. の鏡、車、理工で忙しくてもよくきてSec. に活気をもたらしてくれた晃、関西までいってGNの穴を埋めてくれた鹿島、Argument作りに天才的才能を發揮してくれた土屋、女の子一人でもよくがんばってくれたDeb. Sec. の華、山口さん、そして厚い信頼にこたえてくれたChief、我がパートナー武平、本当にみんなありがとう。

そして忙しい中でもプレバの時間をくれた他の五役のみなさまには感謝してもしきれません。

そして三年間一緒にやってきた'91三年会のみなさま素晴らしい仲間にであえて本当によかったですと思っています。どうもありがとうございます。

素晴らしい仲間
忘れられない思い出
みんな みんな宝物

◎ W E S S の仲間と私

教育学部理学科数学専修・Speech sec. 幸子木真理子

思えば、4年間のW E S S 生活では、節目ごとにたくさんの人達との出会いがありました。一年の春には渋谷HIMのみんな、二年の春には新一年会、そして大夏、新三マネージでは今の四年会との初めての出会い。そして、三年会となった春には、たくさんの一、二年会との出会いなど。いつも、新しい友人が増える度に、私が学館にいる時間が長くなっているようでした。

私は大学生になったとき、「自分は将来、大学院に進もう。勉強するために大学に来たのだから!」などと考えていて、サークル活動は補助的なものにとどめようと思っていました。が、実際はまるで逆。W E S S の合間にお愛想程度の勉強をするだけで、よくもまぁ、これで大学院に入れたものだと、自分でも半ば呆れています。これでまた、馬鹿な院生が一人増えてしまった・・・。それはさておき、なぜ、W E S S 中心の生活になったのかというと、1). 数学よりW E S S 活動の方が楽しい。2). 生来、負けず嫌いで一つの事を始めると熱中してしまう。

この2点が挙げられるのではないかでしょうか。でも、実際は活動って楽しい事ばかりじゃない。ディベートの徹夜のプレパや、マネージなんて今思えば信じられない光景。でも、やっぱりW E S S 活動の一つひとつを『楽しかった』と心の底から感じて、終わらせてこられたのです。その中でも、やはり一番鮮明に印象に残っているのは、三年会のときの大隈杯です。このとき私は、chair-personでした。c. p. という仕事は目立つ分、緊張感も多く、でも、会場の雰囲気づくりのためにあまりピリピリしてはいけないという、わりとつかれるものです。特に、judge の入退場、settingのchange等はcueを出す立場にいながら、実は本人は一步も動けず、具体的な仕事は他人に任せっきりという状態です。相手を信用していなければ、とても怖くて、堂々とはできません。しかも大隈杯ではspeech contestのmanageには慣れていない他sec員や、一・二年会も多い。でも私は、実はこの時一番安心して進行役を務めることができました。自分でも不思議です。今思えば、「みんなを信用していたから」という理由に尽きるでしょうが。この言葉は月並みですが、本当に信頼できる仲間をもてるという幸運は、月並みなものではありません。

『私は幸せものだなあ』と、このとき痛感しました。

さて、これほど私の大学生活の大半を支配していたWESSも、大隈杯が終わったと同時に、私の生活から急速に遠のいていきました。4年になっても就職活動のない私は、みんなとの距離ができてしまった気がして寂しかったです。ポンストスの定例会も授業の都合でいけなかっただし。

『やっぱり、WESSも活動のばなくなれば疎遠になっていくんだな』こんなセンチメンタルな気分の私に、ある日一枚のハガキが届きました。

『まりちゃん、お元気ですか？まりちゃんの大学院進学がほぼ決定したと聞いて、私もみんなもとっても喜んでいます。おめでとう。まりちゃんも時々はポンストスに来てね』

これはまじょみちゃんからのハガキでした。嬉しかった。まるで勘当されていたドラ娘が、ある日突然、親から温かい文面の手紙をもらったかのような嬉しさでした(注、実体験には基づいておりません、念のため)。私はハガキを受け取った次の日に、早速ポンストスに行ってみました。すると、いるわ、いるわ、懐かしい顔がいっぱい。就職活動のためか少しやつれ、しかし、少し大人っぽくなつた仲間たちが学館からポンストスへと場所を変えて集まつっていました。

私は今まで、ほとんどのWESS行事に参加してきましたが、自分でも時々、『どうしてこんなにマメに参加するんだろう』と、不思議でした。その訳がこの時わかりました。WESSの仲間が集まっているところからは、いつも暖かいオーラのようなものが感じられ、私はその中にどっぷりと浸かっているのがとても心地よくて、いつも自然とWESSにはまっていたのです。そのオーラは形は無いけれど確かに存在して、形が無いからこそ、それは学館でも2学でも、野尻湖でも、そして4年会合宿が行われた本庄でも、いつも同じ暖かさだったのでしょうか。皆さん、本当にどうもありがとうございました。自分の大学生活がこんな形で充実するとは思いもよりませんでした。心から感謝しています。皆さんに卒業してからも、また何度でも会えることを願ってやみません。

風に舞う 桜ふぶきを めでながら

過ぎ去りし日に 心かへらん

卒業文集

Title ; 「お嬢」と私

名前；浅川尚子（お嬢） 学部・学科；教育学部 英語英文学科

Section・役職；Speech Section 内 Study chief

私のESS生活は「お嬢」というあだ名に彩られています。この「お嬢」を元に大学生活を振り返ってみます。

1年。Drama. Fees. 練習時に「お嬢」誕生。つぱりWomanを演じた私に友人がつけたあだ名は「不良」。猛反対する私に対して、2日後、彼女が考えたのがズバリ「お嬢」なのです。しかし当時はESS活動に消極的だったので、この名を知る人はバハラ内に収まっていました。

2年。私の呼び方に後輩達は迷ったようです。「お嬢先輩」が一般的ですが、「お嬢さん」と言う後輩もいて、このあだ名の出所を知ったら彼らは驚くでしょう。「お嬢」がWESS中に広がったのは大夏の御蔭です。以来、ほとんど話したことのない人でも私を「お嬢」と覚えてもらったのは幸運だったと、このあだ名に感謝しています。

3年、やがて4年になり「お嬢先輩」も「浅川さん」に姿を変え、私の大学生活が間もなく幕を閉じるのを告げるかのように聞こえます。

「故郷は人にあるか、土地にあるか。」という評論を予備校のテキストで習いましたけど、「お嬢」の故郷は学館ではなく回りの友人達にあります。

10年、いや50年後でも、私に会ったら「お嬢」って声をかけてくれる友達が何人いるのか、今から楽しみにしている私です。

いつの日か あろうと夢見る 白髪の
我振り向かん 「お嬢」と呼ばれて

Title: レジュメと僕

名前 荒木 研史郎 学部・学科 一文

Section・役職 Drama Section (Costume-Chief)

毎日の出来事をとりとめもなく書き残すのが日記であるなら、折々のイベントだけを取りあげて、こと細かに「その日」を記録するのがレジュメだと常に僕は思っている。ESSにはいるまで知らなかった単語であり、これがフランス語らしいというのを知ったのもずっと最近のことだ。だけど、これなしでは僕の1年間を語ることはできない。大切な懐かしい言葉であることも間違いないように思う。

今、僕の手元には、シワだらけの山ほどのレジュメがしまってある。そのただ紙切れたちを僕が捨てられないのは、文字になった一人一人の名前、そして細かなスケジュールを追えば、陳腐だけど映画のシーンのように「その日」が頭の中で繰り返えされるからだ。そして、そうしたレジュメの中で特に思い出深いものあげるなら、おそらく2年会春合宿と'91四大ドラマ本公演最終日のものだろう。レジュメ自体が楽観的すぎる上、慣れない運営のため四苦八苦して、ひどく叱責をくらった春合宿、「自分でやることを突き放されて初めて実感した。「完璧」にこだわり過ぎて、しまいには原稿の3倍以上の紙をゴミにしてしまった覚えがある。それから、誰かさんのきれいとはいえないが入なつっこい字で「やるぞ」といった意味の文句（覚えていない！）が大きく書かれた四大最終日のレジュメ。搬入口の吹きっさらしでふるえて待機するスタッフ、ストップウォッチ片手に駆けまわるDra-Con達。緊張しまくった自分の姿と、「感動」にこだわり続けてやみくもに一つになろうとしていた皆の姿がそこにある。文字のスキ間からは、観客のざわめきさえこぼれてきそうだ。他にも、小夏、大夏、総会、など、すべてが僕らの四年間のあるピリオドを、見る度鮮やかに再生してくれる大切な記録なのだ。正直言って、ESSでは嫌なことも沢山あった。レジュメを開くや頭に浮かぶのは、悔やむ自分であり、怒る自分だ。だけどそれがすべてだった僕だから、敢えて否定はすまい。

ただ、まさに青春の1ページと呼べるこのレジュメ達をもって、「大学生の僕」を大切に覚えていたいと思う。レジュメはタイムカプセルかもしれない。・・・なんつって・・・

ここで一句

成功の 祈りをこめし 文字文字に
はじらいおりし 若き我が見ゆ

Q.

- 1: 松尾ヒ藤沢、ファンにさせた数がタレツはヒッち?
- 2: 相原の奇面組コウ君と淳ニクルー大柴、
ヒッちか似てる?
- 3: 元子の漢字・歴史の知識と文則の芸能スポーツ
知識、すごいヒッち?

A.

- 1: 契權者数が最も多かったが、結果は 16:6で
松尾 win.
- 2: 相原が伊武雅刀、淳ニカ三上博史でも成り立つこの選択は 15:13で 淳ニ win.
- 3: とにかく究極。2人共、これで食てくれる程。
13:13、契權 3で、かぶす。

卒業文集

Title: 四大セット・トラック隊 と私（俺）
名前 生垣 勉 学部・学科 政経・経済
Section・役職 Speech・大隈杯実行委員長

土砂降りの雨のとある深夜0時、大隈講堂前から3台のトラックが「紺碧の空」の大合唱に送られて走り始めた。行き先は、埼玉県の志木市。荷台には得体の知れないものを積んでいる。4大ドラマのリハのため、会場にセット・プロップなどを運搬するためだ。

1年の時。「志木までの道を教えるから覚えろ」という指令のもと、トラックの狭い中央座席に座った。早稲田を出発し、新目白通りを右折し明治通りを北上するまでは順調だった。ところが、池袋で254（川越街道）に左折するポイントを見失った。そのまま王子まで出て辺りをぐるぐる回っている間に行き先を見失い、立ち往生してしまった。運の悪いことにどのトラックにもマップがなかった。右往左往してなんとか254に乗ることができたときには、もうお日様が昇ろうとしていた。

2年の時。この年ドライバーとナビゲーターをすることになった私は、去年の経験からマップを持参した。往路は地図にあるような幹線道路を使い、無事到着。ところが法商裏へ運ぶ帰りに、幹線でない道を通行中、トラック隊は車高より低いガードにさしかかり、数十メートル程バックで下がる羽目になった。交通渋滞を招き、大迷惑だった。

4大のセットの思い出の中でも、トラック隊には思い入れがかなりある。上の2つのようなハプニングだらけだったし。

一緒に行った連中と夜を明かして騒いだり、空の荷台でカラオケしたり。

普通免許を取っても、こういう機会でもない限り2トンあるいは2トン・ロングなど運転しなかっただろうし、深夜の道路を運転するというのも経験しなかったと思う。トラック隊で、トラックを運転できるようになって、普通車の運転にもかなり自信がついた。

トラックで ドライブするとき 気をつけよう
マップの有無と 車の車高

◎ W E S S と私

第一文学部英文学科・Speech sec. ヨリ上 敦子

卒業しないのに卒業文集を書く程さみしいことはありませんが、とりあえず。実質、W E S Sで2年半活動させてもらいましたが、最終的に今考えてみるとW E S SにいたというA DのほうがD Aを上回っていたと思います。私はE S Sというクラブには中1からずっと関わってきて、大学に入ったら、もっと違うサークルに入ろうかなと思っていたのですが、何だかんだ惰性でW E S Sへ、それからW E S S o n l yの生活だったので、何かW E S Sの他の世界を見てないなあ、もっと他にも時間があればいろんなことができるのなあ、という気持ちを抱えていました。でも、私はもともとあまり融通の利く性格ではなく、一度所属したグループをホイホイ辞めたりするのは自分自身が許せない（もちろん物理的理由でというのは仕方ありませんが）と思っていたのも一因で、W E S Sは続けていました。だけれども、W E S Sを辞めなかつたのはそればかりが原因ではなく、一番大きな理由は練習やマネージは大変だけども、すべて終わって一段落した後の感動と満足感にとりつかれてだからだと思います。もちろん英語が好きだったってのもあるからなんでしょうけど。あと半年で終わり、という時に私はアメリカに行ってしましたが、交換留学テストの願書を出すときすごく迷ったんです。やっぱり一番のしがらみはW E S Sのことと一年落ちることでした。何か変だよね、サークルのことでアメリカに行けるかもしれないチャンスをどうしようかって悩むの。アメリカでの一年はあっ、という間でした。日本と違う環境で一年暮らすというのは何てexcitingなんだろうって思いました。勉強も大変だったけど、慣れてきちゃうと、W E S Sのほうがもっと忙しかった様な気分になりました。結果的にやはり一年留年ということになりました。が自身では全然気にしてません。最後になりましたが、W E S Sのみなさん、特に四年会のみなさんとお知り合いになれ本当に楽しかったです。就職される方々、本当に頑張ってね。I wish you a good luck ! ここで一句。

友人の結婚通知ハガキをもらって、「私達結婚しました」と通知あり、果たして自分はいつになるやら・・・失礼しました。

（） WESSと私

第一文学部英文科・五役幹事長 遠藤 幹央

WESSでの4年間は、コミュニケーションの日々の連続でした。ESSはクラブなので、常に一緒にやっていく仲間と意志疎通することが必要であり、そのためには『言いたいことを伝える』こと、すなわち、コミュニケーションが不可欠です。私は4年間のESS生活で、コミュニケーションの難しさとともに、それを成し得た時の満足感を知りました。

私にとってのコミュニケーションの難しさは、自分自身をしっかりと持つ、ということがうまくできないことが原因だったと思います。この点は、大学でクラブ活動をやるときの私の課題でした。もともと、大学生になってESSをやろうと思ったのも、いろんな人達が集まっているなかで、自分というものを持ち続けることを学びたかったのです。

一年のとき、四大ドラマのキャストとして、まず、コミュニケーションの難しさを痛感しました。『こういうドラマにしたい』という本当の気持ちをみんなでぶつけ合う、ということが最後まで、できませんでした。

ようやく公演一週間前になって、それをみんなにぶつけたとき、新たな活路が開け、心がすっきりしました。この経験が、その後の私のESS活動への自信になりました。

WESSで得たことといえば、まっさきにこういった苦しかった思い出が頭に浮かびます。でも、それが今後の私の将来に役立つと思っています。

一句、ちょっとした会話が心に残ってる

WESSの仲間が僕の財産

(無題)

政治経済学部経済学科・Debate sec. 屋島秀一

先日、『びあ』の紙面でこんなのを目にしました。『バンド結成当方、ボーカル担当。ギター・ベース・キーボード・ドラム募集』

じゃあ、テメエは何なんだよお！！思わず僕は思いました。

『でも、WESSにおける俺って、何なんだろう？』

次の瞬間、パンドラの箱を慌てて閉める自分に気付きました。

『WESSを続けて良かったか？』最近、同期・後輩を問わず、この手の質問を良くうける。その都度適当に受け答えをしてはいるものの、ハッキリとした答えを持っているわけではなかった。

正直いって、辛いと思ったことの方が遥かに多い四年間だった。振り返るほどの過去など何もなく、大切な思い出はあっても、すぐるほどの思い出は何も持っていないわけですよ、これが。（唯一、と言っていい『大夏』も、四年の夏に野尻湖を訪れたとき、それはもはや僕らのあの夏の『それ』ではなく、学生時代の実質的なレクリエム以外の何物でもなかった。All-Japanにしても、Debaterとしての昔のカンが戻ってきたときにはすでに敗北者となってしまっていた）

たぶん、他のみんなはこんなヒネクレたことは言わないでしょうね。ふつう、思い出は甘美で、そして、曖昧なものとして心の引き出しにしまっておくものですよ。だれも、冷静に突き詰めようとはしません。無理もない。だって、現実はいつも突き詰められることの繰り返しだから。アイマイが悪いことだとも思えない。正しけりゃ良いってものでもないのよ。だから僕も、せめて、思い出や記憶、そして自分にとって大切なものはそっとしておこう、と、このごろ思うのです。

僕にとって大切なkey wordはたくさんあります。ここでなからたら今日の自分はなかったSbHM、企画サイドにたったH to H、9人の弟子、Light sec.、・・・etc。活動の場以外でも、中野近辺の連中の下宿で酒をあおりながら、ズシリと重い一言に出会ったことも何度かあった。

むかし、太宰治という人が『夕焼けは滅びの色だ』などと、ぬかしましたが、消えてなくなってしまうものは、その中身とは切り放されてもうそれだけで美しくなってしまうワケですよ。この時期になるとやたらと過去を美化したがる人が多い（俺、そーいうの言葉に対する誠実さ、という点においてどうしても許せないわけ。俺に何の断りもなくロングヘアーにしたデミ・ムーアと同じくらい許せない）けれど、やっぱり、笑ってばかりいられた四年間ではなかつたわけです。自分の弱さの裏返しかもしれないけれど・・・

それなのに何とか四年間、精神分裂病にならずに済んだのは、電話をかければ何時間も愚痴聞き相手になってくれ、いつも自分の周りにいてくれた連中のお陰だと思う。

学院時代、人に勝つことしか頭になく妙にトゲトゲしかった自分が、少しは人の気持ちを考えられるようになったのは、僕にとってヤスリのような存在の貴重な数人の友達・先輩・後輩がいたからでしょう。これらの人々には本当に感謝の言葉もありません。

『幸福とは、自分が実は実はひとりだということになるべく感じたくない人生のこと』と、もっともらしいことを学院時代、雨が降るとすぐに休講にしてしまう現代文の先生が言っていたけれど、これが本当なら僕の大学生活はきっと素晴らしいものであったのでしょう。

身の程を知らない上に性格が頑固なため、一年みんなより社会へのスタートが遅れてしまいました。ちょっと取り残された感も無くはないけれど、自分で決めた道だし。疑問を持たずにまっすぐ進む幸福よりも、回り道でも悩みながら進む方を選びたい。これを不幸と呼びたくはありません。そのほうが本当の自分でいられると思うから。どうやら僕の人生は『2点間ヲ結ブ最短距離ハ直線デアル』というわけにはいかせてもらえないみたいです。

最後に、先発隊の5人の仲間と自分を選んでくれた委員長の目玉君、そして大夏まで(後も!?)迷惑かけまくったchief以下、Deb-secのみんな、All-Japanの我がパートナー、同期のみんな、SbHM'89一年会のみんな、僕を先輩扱いしてくれた後輩たち・・・etc

いま僕は、誰にってことじゃなく、ただ、ありがとうを言いたい気持ちです。 キ、キマッてしまった・・・

◎ WESSと私

第一文学部英文科・Drama sec. 鹿島 純子

私にとって、WESSは愛憎の二律背反するもの、というのが最も適當な表現でしょう。

WESSは最も嫌いで、最も愛すべき団体でした。それしか言いようがありません。今後、ここに属していた人々は、その影響を多少の差はあれ、どこかに保ちながら暮らしていくでしょう。

が、自分自身のことに関する限り、私は今後WESSとは全く切り離された人生を送りたい、というのが正直な気持ちです。

群れること、つるむこと、属すること、まとまるここと、和を保つこと、こういう一つの価値観の意義を身をもって体験しつくしてしまったので、これからはそれ以外の価値観の下で生きてみたいからです。

思えば、WESSはどこか日本の、若しくは日本人の精神構造の縮小形のようでもあります。だかこそ私はWESSを憎みつつ、でも愛着を抱きながら決別を告げるのです。皆さん、お元気で。

Q.

4: 中山と山田、3年会までで授業の出席率が
何割は?

5: ふみちゃんと豊田、衣装持ちはどう?

6: クラ研のしゃれと中橋のギャグ、あなたが好みは?

A.

4: 2人共、4年生には、丁目覚めたのは周知の事実。
結果は 14:11 で 中山 win.

5: 結構差が開いたが、豊田の衣装も必見。ふみちゃん
はいつももないのでしょう。結果は 17:5 で ふみちゃん win.

6: ニワ武器で、いつも場を和ましてくれるニワ2人。
結果は 18:6 で 中橋 win.

◎ WESSと俺

理工学部電気工学科・Speech sec. 上條 俊一

理工なのに英語が好きだったことと、東後先生に憧れていたことから入ったWESSだったけど、振り返ってみると英語以外に得たものが多いことに気付く。

第一に友達。理系の俺にとって、バックグラウンドの違う文系のみんなといろいろ議論できたことは非常に有益だったし、何よりも楽しかった。つらいこともあったけどね。留学して以来、帰国後も本部に行かなかつたこと也有って、随分疎遠になってしまっているけど、この友人関係は一生の財産であると思うから大事にしていきたいと思う。

第二にマネージ力。イベントを集団で企画・管理・運営するにはどうすればよいか、といった方法論のようなものを、その大変さとともに学べたと思う。とはいっても、要職に就いた訳でもなく、三年後期を経験していない俺は、そんなことを言う資格はないかもね。第三にPresentation skill。すなわち、俺達が『国際人ら必要とされる資質』として挙げた例の3つ(Logic, Rethoric, Delivery)のこと。米国留学中、Speechの授業をとったんだけど、教えられたのは、究極的にはこの3つ的重要性だった。日本語でPresentationするときも、この3つが大事なんだよね。内容が素晴らしいとしても発表が下手なために損をしている人が多い中で、体系的にこの方法論を学べたことは大変有益だったと思う。得たものばかり書いたけれど、当然失ったものもある。でも、あえて一句。

”結局は 入って良かった 英語会”

◎ W E S Sと私

教育学部英語英文学科・Speech sec. 北沢 美美代

「英語を話せるようになりたい」その思いからW E S Sの門を叩いて早4年の月日が経とうとしています。その間の様々な出来事 — The Wa
11. 期せずしての大夏デビュー、広尾に通いつめたHome to、深夜の新3マネージ、みんなの支えでとれた対外でのprize、そして大隈杯、その後の凹陣 — いくつもの場面、いくつもの光景が、今、走馬灯のように私の中で蘇ってきます。

そして感じる事は、いつも自分自身一生懸命だったし、そうできたのは今いるみんながまわりにいて支えていてくれたからこそだったのだ、ということです。

このただ広い早稲田、幾千もの見知らぬ顔が行き交う中で、自分の居場所、自分が自分でいられる場があった事はとても幸せでした。W E S S'91の一員であった事を光栄に思います。どうもありがとうございます。

10年後、20年後に笑顔で又、みんなに会えることを期して —

Q.

- 7: 純子の腹式発声と多田の腹式歌唱法、声の通さのはどうち?
- 8: まじょみと久美ちゃん マーティンで強いつはどちら?
- 9: 1ム1ムとちーちゃん、朝強いのはどちら?

A.

- 7: 2人共、天性+努力の賜物、お披露目 差ない?
- 8: 8で 多田 win.
- 8: 役を知らない女雀師2人、13:10で久美ちゃん win.
- 9: みんなに徹夜が続いても合宿の朝は2つの方より
いれば安心。15:12で 1ム1ム win.

Title: 時代劇と私たち

名前 粟山 元子 学部・学科 第一文学部日本文学専修

Section・役職 Speech

WESSには様々な思い出がありますが、私にとっては大切な、一生大事にしたい友人ができたことが一番のいい思い出でした。そんな友達とは、一緒にふざけたり、泣いたり、怒ったり、人生について語り合ったり・・・本当に貴重な思い出がたくさんあります。今回はその中でふざけあった事の中で流行った「時代劇」についてかこうと思います。

私の周りでは、何故かみんな時代劇が好きで、「たかあきはくいしん坊だから水戸黄門のうっかり八兵衛に似ている!」「ちいちゃんは飲み屋のおかみにいそだよね。」なんて話題でもりあがっておりました。時代劇の隠れファンは他にもいるかもしれません、ここで正しい時代劇の見方を伝授します。【暴れん坊将軍シリーズ】①吉宗はいつまでも結婚せず、浅茅陽子らに「新さんも早くお嫁さんもらわなきゃあね」とつっつかれているが、本当は結構女好きだった。因に、タイプは健康的な女性 ②悪者をやっつけるとき、吉宗が「征伐」とお庭番に討たせるが、これは将軍は人を斬ってはいけないことから。だから、ちゃんばらシーンも、みね打ちといって刀の切れない方でたたいているだけ。ちなみに、時代劇では人を斬るシーンが多くてくるが、普通日本刀は一人斬ると刃がぼろぼろになり、使いものにならない。史上最高といわれるのは関ヶ原の戦いの塙原ト伝の13人斬り③「暴れん坊将軍」の撮影のときは、松平健は太秦の映画村をスクーターで移動するらしい。【遠山の金さんシリーズ】①金さんこと遠山影元は、さくら吹雪でなく、どくろの入墨をしていた。【水戸黄門シリーズ】①水戸黄門の俳号は“梅林”なぜ梅が好きだったかというと、平安時代天神様こと菅原道真が九州の地へ流罪になるとき、自分の家の庭の梅と桜を哀惜し、歌をよんだ。道真が九州にいった後、梅は主人を追って彼地に飛んでいったという（飛び梅）ことから、梅は忠義の花とされたからである。②光圀は早熟であった。9才のとき乳母のお雪に「お雪とい

う名なのにいろがくろい」といって恋を仕掛けたという。などなど色々あります、本題からそれたようです。懲りない私達は日光江戸村へいこうね、と旅行を計画しております。

Q.

10: 幹夫ヒ晃、野獣の称号授けるしたらどう?

11: おじょうとまこほん、最初、WESSの男に背えていたの
どう?

12: 梶末さん(ウインクキラー)とあ、ふんの見合ゲーム。
思い入れが強いのはどう?

A.

10: 思い出すのは、晃、遠藤、中山の3人が並んで座って
いた新スマネージ。意外といつか当然といつか。

20: 3で晃 win.

11: 背えてか、さまれてか、特定のW.E.S.S.の男に冷たい視線
を送っていた2人。今では温かい視線を送ってくれて
ることを信じています。17:4でまこほん win.

12: 2人が吹き込んだこの新レリゲームで1年間
盛り上かりました。20:4であ、ふん win.

Title: 思い出と私

名前 車 昭人 学部・学科 商学部

Section・役職 Debate Section, 文連

大学1年生のときから、最後の4年生のときまで、ESSにいたけど、一番印象に残っているのは何だろうと、考えてみると、なかなかバッとかんでこないような、くるような。

やっぱり、いろんなことがあったんだろうなと思い返して、もう卒業かと思うとしみじみしちゃいます。

でも、結局、一番印象に残るのは、やっぱ、3年のときかなという気がする。

なんでかっつーと、ESSやってて、一番くやしかったことや、一番うれしかったことがあったのは、この3年生のときだったと思うから。

それに、“ありがとう”とか“おめでとう”とかの日常で、よく耳にしたりすることばが、それまでに体験したことないよーなひびきできくことができたからだ。

そーいうーことを体験できて、本当によかったと思う。そこで一句

卒業式 期待とさみしさ 入り交じり

うれしいよーな かなしいような

お粗末

◎ WESSと私

教育学部国語国文学科・Speech sec. 坂本千津子

決して大袈裟な話ではなく、私にとっては良い意味でも悪い意味でも、WESSが生活の中心でした。服装も価値判断も日々のスケジュールも、愚痴をこぼしつつ、やっぱりWESSから離れられませんでした。うーん、今思えば『井の中の蛙』的なところばかりだったかもしれませんね・・・。おまけにどうしようもなくおすましでプライド高くて、でしゃばりで・・・。『青かったなー』の一言につきますが数々の過去の言動を思い出すたびに赤面と絶句！ばかりです。

そんな私も、今ようやく外からWESSを眺められる時期に来てみると、やっぱり懐かしくて・・・。消したいような思い出もあるけれど、失いたくない友人らとの出会いもあるし・・・。

ただね、こうした思い出をすべて美化しようとは思ってないんです。イヤなことは明日への教訓にし、良かったことはそのまま胸にしまっておく。WESSで得たことは淡々と整理するに留めたいなぁ・・・。
だから、さらっと5月の風が吹くようにサヨナラします。

手のひらの 砂こぼれゆく サラサラと

あのときのわたし あのときのあなた

(○) 資格とお祭りと私
第一文学部社会学専修・Drama sec. 佐藤 文則

今晚は、関口宏です。今日の『知ってるつもり？！』は早稲田の森が生んだスポーツおたく、佐藤文則さんです。ゲストはいつもの通り加山さん、マチャアキ、大空真弓さんです（3人軽く一礼）。それでは彼の人生を振り返ってみましょう。中学でバレーボールのキャプテンや学級委員長を務めていた文則は人をまとめることが苦手な自分に嫌気がさし、高校では帰宅部の利己的な人間になってしましました。そこで大学では人との連帯と、今後の為に資格（英検）の勉強ができるサークルを選ぼうと思いWESSに入るわけです。関口『加山さん、この気持ちわかる？』加山『わかるね。僕にも経験あるんだけど、宇宙は一つなんだよね』一同『・・・』<第一の選択>WESSに入った彼は山田君・水科君・淳二君・藤沢君などと知り合い、彼らの魅力に魅かれます。しかし、Dra-Fesが終わる頃、『そろそろ資格の勉強をしなければ』と思った文則は『WESSをやめようかな』と思い始めます。そして、大夏前、文則は秋田へ帰ります。小さい頃からずっと参加していた地元の祭り『港まつり』に参加するためです。これは大夏期間近辺にある祭りなのですが、結局、彼は最後の思い出を作ろうと、もう一つのお祭り『大夏』を選択します。大夏は夢のような世界でした。横山さん・尾上さん・羽牟さんなど素晴らしい先輩と、ケーちゃん・鹿島大先生・ジミーなど素晴らしい仲間に囲まれ、はしゃぐことができました。『これは最後の思い出になるのかな？』と彼は感じていました。関口『加山さん、どう？』、加山『うーん、若い時はそーなんだけど、すぐ最後かと思っちゃうんだよね。宇宙は永遠なんだよね。』一同『・・・』<第二の選択>夏スタ、小夏を欠席し、WESSをやめる方に傾いていた文則は最後のつもりで参加したお祭り『大夏』が引っ掛かっていました。そんな時、彼は偶然落合のすかいらーくでSpeechを書いていた藤沢君に会うわけです。藤沢君にさんざんグチッた文則は、『資格とお祭りは両立する』と考え直し、WESSに残留することになります。加山『うーん、宇宙はね・・・』（さえぎるように）関口『マチャアキ、どう？』マチャアキ『理想に燃えるのは若さの特権ですよね』、加山『宇宙はね・・・』関口『さ、さて、それでは文則大学生活の晩年です。』[晩年] 2年の時の大夏では、彼は『去年俺がいまいち楽しめなかった分、後輩を楽ししま

せよう』と考え、エンタテを始めとするイベントすべてに燃えて、結果的には総合三位となり、十分に楽しむわけです。そして三年の時、彼は念願の先発隊の一員となり、淳二、山田、鹿島、ワタ、オーノ、イケ、コウとともに、今度はWESS会員全體を楽しませる役目を担いました。『先発期間中の暑い中で上半身裸でやったグランドの草抜き、ハイクコース点検の一步目でオーノ隊長がコケたこと、先発最終日のオーノとの風呂での腹を割った話し、桟橋での月見酒、研史郎のエプロン姿、ガクのスター、車の湖畔の姿、くみちゃんの司会、メーカリのファイアー、じゅんじの湖へのダイビング、すべてが素晴らしい思い出です。特に、大夏期間で一番印象に残っているときはキャンプファイヤーを作っているときでした。ワタとコウが登山から疲れ切って帰って来て、時間もなかったんだけど、何故か無言で懸命に木を組んでいる机を運んでいる。言葉がないのに心がつながっていることが分かる時、『男同志っていいな』と思う時間でした。そしてきっと、ファイアーの中で遊んでいた会員、班長たちを腕を組みながら見ていた6人の想いは1つだっただろう。』と文則は最後の大夏を振り返っています。関口『マチャアキ、どう？』マチャアキ『素晴らしい経験ですね』関口『真弓さんはどう』真弓『あんまりうらやましくて・・・(涙ぐんで絶句)』関口『加山さんどう』加山『僕も経験あるけど、やっぱり宇宙は一つなんだよね』一同『・・・』(視聴者『加山、いーかげんにしろ！』)関口『でも、これじゃ、お祭りばかりで資格の話がありませんね。その辺は彼の大学時代を振り返った晩年の言葉を見届けて、納得してお別れしましょう。それでは・・・』

彼は晩年、次のような言葉を残しています。『WESSの中での私は後の人生のためになる資格をとることはできず、資格の勉強からは何も学ばなかった。しかし、お祭りとそれに集う仲間たちから、人生のなかで最も大切なものを学んだ。Ayatori』

チャララランランラーンラーン♪人は誰も同じ時に傷ついて それでもまだ～♪ MC『来週の知ってるつもりは日本の生んだマザーテレサ、佐藤久美子さんです』

Title ; めがねと私

名前 佐藤久美子 学部・学科 教育学部理学科数学専修

Section・役職 Speech, Home Meeting Conference

私はめがねと共にこの4年間を歩んできた。高校まではほとんどめがねをかけていなかった私は、大学に入って「くみちゃん、めがねをかけた方が似合うよ」といわれてから毎日かけるようになった。今では皆に“私はめがね”という印象をもたれていると思う。しかし、そのめがねもWESS 4年間の中で徐々に変わっていったのは皆さん気付いてくれているでしょうか。

茶色のフレームの1年は、その色のとおり、まだまだあかぬけきれず、WESSでただ眞面目に皆に必死でついていった思い出を象徴している。2年からかけ始めた赤いフレームは、スペインの闘牛が赤いハンカチに突進していくように、色々なことに少しずつ目覚め、社交的でなかった私が自分から活動や遊びに参加するようになった積極性を表している。まりちゃんと二人で1日4時間もカラオケをしたのもこのめがねに変えた頃からだった。そして、一生付き合っていきたい仲間を得られたのもこの頃だった。ふちなの4年間は、WESSが終わり、眞面目にものごとに取り組むことを忘れ、「くみちゃん、口が悪くなったね」といわれるようになった。でも私は本当は“ふちな”ではなく、夏に雨にうたれてひっそり咲いているくちなの花にあこがれています。

そして先週、コンタクトを買った。私にとって思い出深いこれらのめがねをWESSの4年間の思い出と共に、めがねケースにしまっておきたい。

「 みんなから 笑われるかな コンタクト

笑われるから やめよーかな 」

◎ WESSとトレパンと私

第一文学部・Drama sec. 管井 香織

どーも、こんにちは。WESS三年間のこと、一言では言えません。ふた言でも言えません。とても不思議な時間だった気がします。一つひとつ活動、思い出に浸る間もなく時間が過ぎてしまったので、なんだか頭の中で整理して、自分の思い出のアルバムにするのに時間がかかりそうです。今は、WESS以外で過ごしたほんの少しの時間の方が、大学生活のlovelyな思い出として印象に残ってたりします。でも、WESSでの三年間をよく思い出して考えてみれば、これほどまでに何かにとりつかれたように没頭し、多くの苦しみと財産を得たことはなかった気がします。それらを与えて下さった皆様に感謝、感謝。

そして、私、我がままで皆様にご迷惑おかけしたことが多かったので、ざんげ、ざんげ。海外旅行したりと、他のことやりたくて手を抜いた活動、多。この場を借りてお詫び申し上げます。

ま、そんな私でもDramaには熱血させて頂きました。ドラマは大勢人が集まってcreate&showする喜びが味わえる、という魅力があるので、それが私のラテン系の血を騒がせたのでしょう。

特に四大はBig。あれだけのお金と時間と人數をかけてやる学生劇はあんまりないですからね。そして"せっせとくま"する。今思えば凄かった。サド・マゾの世界。あれで人間変貌しますものね。私はADとしてCastを育ててCastが変貌、というか成長していく姿を見ることができて貴重な体験ができたと思います。そして自分自身も、しこしこと皆様に磨いて頂き、ここまで大きく（小さいけど）、なりました。ありがとうございました。

WESS三年間。。。とてもさわやかに語れるものではないですが、良い思い出になりそうです。ただし、ドラマの練習のためにいつもトレパンとか、汚れてもよい恰好をしなければならず、おしゃれができなかつたのが唯一悔やまれます。

ドラマに没頭してた自分を振り返って、最後に一句。

"トレパンに 四大トレーナー いつも着て
あたしの青春 うつくしきかな"

みなさま今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

卒業文集

Title ; パンフレット作りと私

名前；杉山泰生 学部・学科；商学部 広告管理論専攻

Section・役職；Speech Section パンフレット・タイトルバック制作

ESSでの思い出を語れと言わればいくらでもあるが、今回は一つにしほらなければならないので、胸に手を置いて考えてみた。すると、3年間の活動の中で常に自分が執着していたことに思い当たった。それは、パンフレット作りである。

もともと工作したり絵を描いたりするのが好きな僕は、進んでパンフレット作りを引き受けた。3年間そうだった。自分が手がけたものは10冊以上あって、今でも大事にしまってある。渋谷ホームでは合宿のパンフレットやブラック・リスト、新入生歓迎パンフなどを作った。スピーチ・セクションではコンテンツ・マニュアルやエクステンボ・マニュアルを担当した。4大委員のときは4大結成式のレジメ・パンフや委員の名簿パンフを作った。

生来凝り性なので、かなり凝った。ある時は、パンフレットに渋谷ホームの2年会27人の似顔絵をのせるために、試験期間中であるにもかかわらず、似顔絵専用ノートまで作ってせっせと書き貯めた。みんなをあつといわせるのが楽しみで、密かに準備していたのを覚えている。その時はできたパンフの評判が良く、1年生がパンフレットを見ながら先輩の顔と名前を一致させているのが嬉しかった。

パンフレットはESSの活動に必要不可欠なものではなかった。あくまでも付随的な存在で目立たないし、皆あまり気にも留めない。しかし、場の雰囲気作りに少なからず貢献したのではないかと思っている。自分が凝って自己満足に作ったものが、少しでもだれかの心を和ませてくれればそれでよい。そういうばあ、あんなパッフレットがあったけ？という感じで、みなのESSの思い出の中に1回でも登場してくれれば大満足である。

まだお話したいことはあるのであるが、長くなるといけないので、ここでストップにする。最後に、一句詠んで終わることにしたい。

木枯らしの ふく夕暮れに 一人居て しみじみ思う 四年間かな

卒業文集

Title : Stage Make-upと私

名前：高梨真由美（まじょみ）学部・学科：第一文学部 東洋史学専修

Section・役職；Drama Section メイク・チーフ

メイク・チーフをしていたといっても、私は本当にお化粧に縁がない。他人の顔ならうまく塗ったり描いたりできるのに、何故か自分の顔は出来ないので。時々、してみようかなと思い描いてみても、気持ち悪いので洗い落として出掛けてしまう。

こんな私でもチーフができてしまったのだから、舞台化粧っておもしろい。化粧と云うよりは絵を描いたり、彫像をつくったりしている時の感覚に近いのだ。それから、役者と一体感が持てるのもメイクのおもしろいところ。3ヶ月の間に、ステージリハーサルの度に変わってゆく役者の顔つきを見て、心配したり、頼もしく思ったり、とっても嬉しくなったりした。人間は「顔立ち」は変わらないけれど、「顔付き」はもの凄く変わるとと思う。私自身、WESSにいる間、特に3年会の1年で変わったと思う。大人にとって当たり前のことを新しい世界として毎日新しい出会いを続ける3歳児と、私は何ら違わなかった。本当に毎日、毎日新しいものに触れていたと思う。それは自分だったり、他人だったり、会ったこともない戯曲の作者だったり。この歳でやっと眼が開いたのだ。

WESSに入らなかったら、皆と出会わなかったら、今頃私はどんな顔つきをしているだろうって考えると少し恐い。さらに20年、30年後を考えるともっと恐いけれど、みんなそれぞれ素敵なお生き方がしわになって刻まれているような顔で再会したいね。

いつの日か お化粧上手と 言われるや

magammy

Title: D r a - S e c と私

名前 高橋 晶子 学部・学科 第二文学部英文学専修

Section・役職 Drama(Light Assistant Chief)

思えば、私がW E S S を曲がりなりにも続けたのは、全てD r a m a のためであった。1、2年と秋葉原ホームミーティングに所属したけれど、まともに全活動をしたこともなかった。ディベートは今だにほとんどわからないし、スピーチもE x t e m p o を除いては3年会のA l l W a s e d a がデビューだったという珍しい存在で、ホームの人には大変迷惑をかけ、お世話になった。一年の時から、Section 制だったらなぁ、D r a m a に行くのに。と内心で思っていた。そんなわけだから、2年間の忍耐の末晴れてD r a - S e c に入った私は水を得た魚、になるかと思いきや、そこで私待っていたものは・・・・。

セクハラ！！（Section Harassment(?!)）の嵐。E f f e c t 陣では数少ない女性だったにも関わらず、その扱いは本当に丁重で、男性陣は真にgentlemen 然としていて、涙が出る程嬉しかったよ、ねぇ、○○くん！え、D r a - s e c だけじゃないって？ そう、旧4年会の男性諸君はみんなそうだよね。本当にどうもありがとう！ そーいえば3年の時の大夏やスキーはそんなみんなとの楽しい思い出で一杯だ。

私は、W E S S に入って、ずっと一生懸命笑ったり泣いたりしながらみんなと共に続けてこれて、本当に良かった。特に3年会時は全てをかけてやり尽くして、自分達のしてきたことに自信と誇りと、懐かしさを覚える。おかげでこんなにいい仲間が作れて、とても幸せだし、感謝してるよ。みんなありがとう。これからもいい友達でいようね。

そこで一句。

- ・ドラセクや つはものどもが 夢のあと
- ・ドラセクや ああドラセクや ドラセクや
- ・卒業しても 一人 しなくても 一人

卒業文集

Title : 湖(は)と大夏と私

名前：高橋淳二（じゅんじ）学部・学科：第一文学部 英文学専修

Section・役職 Recreation Chief/Drama Section 7a, f, f-7

①上野に来てみたら 変なの約150人

祭りや坊さん天使

クリスマスツリーは安っぽい

これで電車に乗ーのる？ 何だかかっこうつかないよね

「写真を取ってください」 ホームの人気者

悪くないね

湖と大夏と私

きらきらする野尻湖 よく見りゃ

湖底にナウマン象～

「クイズ100人に聞きました」 出演経験の

社長とその家族

②風呂から上がったら いきなり「All English Time」

あんなに元気だったのに みんななぜかだまる

しゃべることといえば インタミの花火鑑賞の時

「Oh Fire Works」「Beautiful」「Wonderful」

始まったよ それ だまれ みーんな～

湖と大夏と私

部屋には布団の山

狭くて汚い男部屋

ときどき整とんしてね

座布団の下から

パンツはゴメンよ～

③やっとイベントだよ

鍋とまな板は用意した～

特製スパイス持って 浮き浮きしてもりてん

何だ ただの野原じゃん

ジャッジ かっこつけて入場

何度も注意されても

油と灯油を間違えるよ

湖と大夏と私

青い飯 黄色い飯

意外に うまくできるもんだー
焼飯大会の日は飯が少ないと
その晩腹減る～

④朝から走るのか

障害物まではいいけど～
ボートボール大会は 3分で吐きそう
班長勝てる～かな～
うちの竿は重いやつだよ～
コンパで負けたせいだ
ほんとに使えない班長だ～
湖と大夏と私
小学校グラウンド 使える年使えない年
やっと終わって昼飯
楽しみな昼飯 オニオングライスだ～

⑤野尻湖に来たから

一度は水遊びしたいね～
ボートに乗るからには思い切り楽しもう
ウインドサーフィンの兄ちゃん姉ちゃんみな決めて
コス着たオレたち見て 「何だありゃ」って日で見なーいで
湖と大夏と私 ひまな5年会が
ボートの行く手を邪魔するよ
賞状読む4年会 「ホントはダントツ」と
必ず言うのさ～

⑥一番クジ引くと その班なぜかつまらないよ

エンタテ合宿中に ちゃんとネタ絞れよ～
最近ドネクで 安易にウケ取りに行くけど
ストーリー、展開 重視で
しっかりしたもの 築き上一げろ～
湖と大夏と私
スターの生まれる場所 スターを見つけるための場所
4年はコスを着ないで 苦労したわりには
下級生見てなーいよ～

⑦酒は飲みたいけど～ 温泉つかった後にしよう

大部屋で野郎の湯 ボクチンデリケートで寝れない
まだ朝の4時だよ 何だこれ変な食パンだ
バス中 マーガリンサンド 事件の予兆
すでに感じ～て～
湖と大夏と私

旅館のトイレ混む　えい　いいや　しないで
登っちゃおう
頂上でうまいスイカ　調子に乗って食う
ド山時　お腹痛い

⑧そんな高い声は　本当は誰も出ないけれど～
なぜだか　ハーモニーまでちゃんとつけてしまう
食堂で聞いているからー　他班の歌は
知っているのさー　思わず奴らの歌を
口ずさんでいる自分に気づく
湖と大夏と私
なかなかロマンチック　心に残るよそのメロディー～
班長は泣き出すなよ　1年のやつらが
びっくりするだろ～

⑨涙のあとは　飲め　踊りのあとは　ひたすら飲め
スイカを投げろ　ビールを頭からかぶって死ね
だけど一人便所で　意識失くすのだけはダメさ
旅館のおばちゃんに向け　水鉄砲うったりしたらダメさ～
湖と大夏と私
骨はスイカのたね　ビールのニオイがセクシーさ
こんなに汚していいかな　いいや宮川だし
もともとボロだし～

⑩朝から色紙かけ～　自分の班だけで数十枚
そのうち20枚は　「来年は絶対来いよ」
食堂に行ってみたら～　征露丸のニオイするのさ
納豆ネバネバするし　吐くなら最初から食うな～よ～
湖と大夏と私
感動の別れは　チャリンコ黒姫
ホーム上　エールを切る声は
電車の窓隔ててあいつらに届く～

⑪あいつら帰ったな～　すごく楽しい大夏だな～
誰だよ　となりのチャリ　勝手に乗ったやつ
明日はボートしよう　誰だよメガネ落としたやつ
誰だよおぼれたやつ　誰だよ高晶落とした～やつ～
湖と大夏と私
一夜の夢のよう　みんなの笑顔がつくる夢
8泊9日間の先発ありがとう
みんな　本当　ありがとう

人間科学部人間基礎科学科
Sp.sec並びにKUEL連盟委員 多田 友彦

3年会になるとき、やめようかとも思った。でも、1、2年をとおして一度も対外に出場していない。ここでWESSをやめてしまっては……と思うとどうしても諦められなかった。確かに、それなりに活動をして満足していたが、運がないのか、ホームでも、個人でもプライズとは縁がなかった。それでもいいじゃないか、と自分を慰めてはみたものの、プライズをもらう気持ちを体験してみたいし、俺にだってプライズはとれるんだという意地（自信などなく、ほんとに意地でしかなかった）が頭をもたげてきた。かくして、私は3年会を続けることになった。

まず、3年会で変わったのは活動範囲である。KUEL連盟委員を務めていたこともあって、大会のマネージでディスカッションを見たり、友達の連盟委員とお互いにESSの話をする機会にめぐまれ、刺激にあふれていた。その中で感じたのは、ESSの躍動感ともいえるパワーである。連盟委員にはもちろん同じ大学、セクションで活動しているものばかりいるわけではない。それなのに、底に流れているものは同じである。ここにESSの強さを見たような気がした。対外の応援に行って、「某の大会に出ていた方ですよね」と声をかけられることもあった。私の周りの“世界”は確実に広がっていた。

本業として一年間奮闘したスピーチでも、得ることが多かった。私の実力は最初は全くのゼロで、一から始めたようなもの。帰国子女に肉薄できるのは、トピックの斬り方、つまりオリジナリティしかないと考え、自分のスピーチを書くように心がけた。何も実績がない私にはすべてが試みだった。トピックをしづるという、スピーチのいわば原則に反するスピーチを書いたのもそうである。リサーチ、リライトの最中も、苦労の二文字から滲み出るようなあの虚無感とはほど遠く、自分の描いていたスピーチに近づいていくのが楽しくて仕方がなかった。結局、後期には2回大会に出席したうち、幸いにも1回は念願の優勝をすることができた。一年間何よりもこだわっていただけに、ホッとした。高円寺の仲間やスピ・セクのみんな、先輩にはいろいろとお世話になった。感謝します。

マネージも忘れない。新3マネージに始まり、セクのマネージ、大夏、ピースコ、大隈と自分の最善だと思うプランをぶつけた。秘かにここでも、我々のいうコミュニケーションスキルはかなり鍛えられたのではないかと思っている。

3年会は、私のWESS人生を見事に凝縮していると言っても過言ではない。血となり肉になることも多かったが、今振り返って、1年のあの無垢で、真摯に物事にとり組んでいた自分を思い出すと、意げぐせ、もっといえばそつなくこなすことも、少なからず学んでしまったような気がする。また、自分のやり方に固執してしまって、自らのフィールドを狭めていやしないか、そんな気もするのである。「学べば、学ぶほど愚直であり続けることは難しくなる。」ここにまた私の永遠の課題ができた。

最後に一句。

他人の愛知れば知るほど 人の世の パラドックスに 切なきおぼえ

WESSディベート・セクションと私

名前：土屋喜嗣
学部・学科：理工学部電子通信学科
セクション：Debate Section '91

WESSに対して今言えるのは、「夢のような経験をさせてくれて本当にありがとう」という、まさに有りがちな、クサイせりふです。「色々あったけど...」と言えるのも、凝縮された様々な体験がそこにあったからこそです。ここでは、僕がDebate Sectionで過ごした1年間を振り返って、印象に残った出来事をひとつピックアップして行きたいと思います。

まず、僕が初めて「対外試合」に出場したのは、2年の6月のJr. KIDLという大会でした。パートナーは、何と鬼面組のゴウ君でお馴染みの相原でした。予選では岡山大・同志社大と対戦し、1勝1敗で辛うじて予選は通過したものの、次はいきなり神戸大の山田君という、当時の西の横綱のような人があたるはめになりました。Negを引いた神戸大学は鬼のような猛スピードでDA、カウンタープラン、トビカリティーと立て続けに出して攻撃してきました。いわゆる「スプレッド」です。今までにそんなすごいものに遭遇したことの無い僕はただ啞然とし、要領を得ずに同じようなrefutationを繰り返し、いつのまにか核心を触れる事無く時間切れとなってしまいました。スピーチが終わると、冷汗をかき、また悔しさというか無力感が全身の力を抜けさせ、ぼーっと立ったままになってしまいました。何よりも悔しかったのは、僕とはあまりにも対照的な相手側の堂々とした、自身に満ちたディベートでした。この時の悔しさは妙に心に残っていて、それ以降、ことあるごとに「打倒・神戸」と念じていたものでした。

時はかわって、3年のKUELの準決勝。AFFの土屋・山口チームは、NEGである神戸大学の小川・山田チームと対戦していました。今振り返って言えるのは、両者にとって、本当に体力・気力を消耗した試合でした。やれることはお互いやりました。結果として僕たちが勝ったのですが、何よりも印象に残ったのは、試合の後に両者が互いの健闘を讃え合うことができたことです。

図書館や学館の地下にこもり、オッタッキーなディベート用語をならべ、そして冷静な判断と称してキツイことをズバズバと言い切る。ワード・エコノミーを追求してレトリックを切り捨てる。一見してこんな印象を持たれがちなDebate Sectionは、まさに合理性追求者の集団と見られることが多いはずです。しかし、まあ、入ってしまえばそこは義理と人情の世界も（それなりに）あるし、Debateという競技自体にも突き詰めていけば様式美のようなものもあるということもわかりました。色々な人とペアを組んでDebateをすると、その人のくせというか、人間味のようなものに接することができ、ますます「Debateがやめられない」、と思ったものでした。内輪の話になってしまい恐縮ですが、最後に一句と/or>いうか、一言述べさせて頂きます：

「昨日の敵も、今日の友人」

あまり意味はないのですが、このような状況が生じるのは、日本が平和な証拠だと思いました。かつては対戦相手としてライバル関係にあったものが、意外な両者の共通点を見出しで理解しあう。これが「昨日の友も、今日の敵」だったら悲惨です。色々あっても結局は共通の目的を持ってるので（広い意味では）、WESSの仲間は、これからも長くつづいて行くと思います。みなさん、3年間ありがとうございました。

◎ WESSと私

法学部・Speech sec. 豊田 成穂

大学生活も残り少なくなって、最近、時々ではあるが、夜、眠りに入る前にふった大学に入ってからの自分の過去や、社会人としての将来について思うことがある。

そんな時、過去について思うとき、当然の様にWESSの中での自分の姿も浮かんでくるのである。

今、『私にとってWESSとは?』と、自分に問いかけてみると、一言では言えないんだけど、何かいろいろな事を教えてくれた、『学校みたいなものなんだよね。他の場所で大学生活を送っていたら、今の自分とは違っていると思うし、WESSに入って、本当に良かった、と思っているんだ。WESSのみんなはいいヤツが男にも女にも多くて、何か照れくせーけど、みんなと会えて本当によかった、と思っている。』

まあ、これからも連絡とりあってさ、ちょくちょくとはいかないかもしぬないけど、遊ぼうぜい!

そこで、一句

WESSなきゃ 女しかいない 我身なり

◎ カゼとともに

商学部・Debate.sec 口木橋 憲悟

本人にはそういう実感はないのだが、このWESS 4年間での私のイメージは体が弱い、といったものらしい。私は納得しないのであるが、カゼをひいて調子が悪い、とか言うと、皆は口を揃えて『またか』と言い、色紙には『体には・・・』とか『健康には・・・』といった類いが多い。非常に情けない。そこで何故そんなに体調を悪くするのか分析することにした。

Sbの鹿島いわく健康管理ができていない。事実であろう。私はすぐ調子にのって無茶をしてしまうようだ。もうひとつあると思う。精神的なものである。安心できる環境下では気合を抜くことができる。もちろんWESS 4年間で気合を入れる機会は多かった。しかし、私にとってWESSとは安心できる安らぎの場所であった。皆の顔を見ていると嬉しくなり、ほっとする。そうなのである。WESSとは私にとってそいつた所だったのである。だから良くカゼをひくのである。

なんのこっちゃ。

一句、かぁーぜぇひいてまんねん そうでんねん

Q.

13: 研史朗と銘めり、マメなうはどちら?

14: 土屋アブリーフと前原カメテ、印象に強いのはどちら?

15: 真理ちゃんが酒と武平が酒、印象に強いのはどちら?

A.

13: いつも学館の席で、いろんな整理をしてたのが印象的です。

13: 10で研史朗 win.

14: 仮等の精神安定剤、15: 5で前原 win. 前原の方か精神不安定?

15: 酒豪真理えり、今だ健在。一方、お酒で苦しんだ
武平、16: 6で真理ちゃん win.

◎ WESSのリーダーとしての一年

政治経済学部政治学科・五役企画管理 中山 高志

自分にとって三年会のときに最も大切だった命題は、五役の一員、そしてPMAとしていかにWESSを効率良く運営し、また会員全員に喜びを与えられるか、ということだった。そこで、その命題に向かって行った過程で自分が得られたことを一つだけ記したい。それは一言で表すと、自分の弱さ、欠点との闘いである。よくMeetingや何かのManageの際、声を張り上げて指示してもなかなかみんなに伝わらない。伝わったとして、不満げであるのがありありと見える。しかし、何が悪いのかは誰も言ってくれない。指示を検証し直しても特に間違っていることはない。ではなぜ?? こんな場面が一年間たくさんあったような気がする。そして、こうした悩みにぶつかったとき、振り返らざるを得ないのが『自分自身』であった。例えば、時間守れと言いながら自分ができない、とか・・・。そして、振り返った結果、自分の悪い点、甘い点に気づかされ（もっとも、本当にそうかと言われると自信はないが）、『結局、自分が悪いのか・・・』となる。このようにして、誰も何も言ってくれない、という厳しい状況の中で、自分自身のことを自分でしか考えざるを得ない、という状況に置かれたということは、自分にとって、とてもプラスになったと思う。これが、WESSの三年会の年に於いて、自分が得たことである。

そして最後に、上に述べたごとく人間的に成熟し切っていない自分の下でいろいろ頑張り、自分を支えてくれた'91・三年会のみんなにいろいろな意味でお礼を申し上げたい。

”ああ眠い 眠い眠い 一年も

終わってしまへば 良き思ひでか”

卒業文集

Title: 下宿とWESSと私

名前: 沢口 麻子 学部・学科: 第一文学部英文学専修

Section・役職: Speech Sec./Study Chief

私のWESS生活は、日吉台の下宿を中心にくりひろげられました。2年に入り、3年で引きあげるまで、活発なWESS交遊の拠点となつたのです。

生活の変化は食事にまずあらわれました。2年の頃は、慣れない自炊もけっこう楽しく料理のうでもあがりました。四大の時泊まりにきた、ふみ、たかあき、まじょみんの栄養不足を補うため、サラダをつくってあげたように覚えています。3年会の時は、忙しくて自炊はあまりできず、外食がふえました。下宿生活の先輩であるたかあきやよっちゃんに、たくましさを教わったような気がします。グルメセクションも、こんな交遊から発足しました。

それから電話。1人暮らしへ、本当に電話が待ち遠しい。留守電にメッセージが入つると、すごいうれしかった。3年の時の電話交流はすごかったなあ。WESSの活動を終えて部屋に帰つてからも、マネージの相談や連絡で、何時間も話し、さらにその後友達と長電話。キャチホンに次ぐキャッチホンの連続で、私はすっかり電話魔になつてしまひました。みんなも寂しいのね、と思って、親密さがましました。

こうして私のWESS交流は、下宿を通してひろげられました。でも、最後の頃は、部屋が荒れてしまつて人を呼べなくなつてしまつたのです。

そこで一句 神田川 こえて学館 通つた日

卒業文集

Tite: セットと俺

名前: 野村 崇 学部・学科: 商学部

Section・役職: Drama.Sec./Set A.Chief

そのセットがどのようなシロモノかは、スクリプトを決定する時に分かっていたはずだった。しかし「階段及び2階部分があり、その下をドアを通じてぐり抜けることが出来る」という、これだけのことを実現するのがどれほど大変なことか、思い知るのはずっと後、具体的な設計を始めてからのことだった。

機能と強度と外観(と予算)、あちらを立てればこちらが立たず、設計というよりもパズル解きに近い作業が延々と続いた。結局かなり変則的な設計となり、それまでの設計の遅れも重なって、Chiefの松尾君や作業スタッフを大いに悩ませることになってしまった。

それでもなんとか完成にこぎつけたのは、ひとえに彼らの協力の成果だと思う。特に本番直前、作業中に大雨にあって大損害を受けた後の、みんなの素晴らしい働きは決して忘れないだろう。ある先輩が「撃沈」と評したほどの悲惨な状況から立ち直り、見事本番の舞台に完成されたセットが立ったときほど、人が力を合わせることの素晴らしさを「実感した」ことはなかった。

振り返ってみれば、自分がセットセクションのなかで貢献できたことなど、ほんのわずかでしかないような気がする。決して設計の苦労は小さくなかったつもりだが、あの雨の中でみんなが必死に働く光景の前では、非常にちっぽけなものに感じてしまうのだ。実に何もかもが、みんなのおかげだった。「みんなのおかげ」。このありきたりな言葉を、しかし心の底から言える機会に巡り会えたことを、天に感謝している。

冬空に 無情にも降る 淋雨 満れてこそ知る 人のぬくもり

（） W E S S 生活と私

第一文学部英文科・Drama sec. 濱田 亜希子

振り返って思い出すのは、懐かしい友人の表情。泣いたり、叫んだり、大笑いしたり・・・。新歓コンパから数え切れないほどの活動を通して知り合った仲間のシーン、シーンの表情が私の脳裏に焼き付いている。思いっきりフォーカスされたド・アップの迫力ものもあれば、望遠レンズから覗いた後ろ姿もある。

高校留学→留年→東京での大学生活、と、目まぐるしく変わる環境の中で、自分の殻を破り切れずにいた私を受けとめてくれた彼らのお陰で、私の大学生活はそれまでの4年間とは全く違ったものとなった。カトリックの女子校育ち、豪州帰りの少女が、男くさい早稲田に通い、はてはジャージ姿で発声練習をやったり、舞台に立つようにまでなった。そうなるまでには紙面では言い尽くせないほどのドラマがある。そのドラマの登場人物として、私に真っ向からぶつかり、関わってくれた友人に私はどれほど感謝していることか。彼らが鏡のように私の周囲にいてくれたお陰で、私は自分自身について本当に深く考える様になった。

他人を通して見る自分の像の中には、時には認めたくない所や避けてしまいそうなところもあったが、そんな時も彼らのうちの誰かが、私に手を差し延べてくれたり、背中を押してくれた気がする。

思い出を美化するつもりはない。大袈裟に聞こえるかもしれないが、それほどW E S S 生活は私に形の無い想いの大切さを伝えてくれた。こんな人に会えただけでも、W E S S 生活は貴重だった。

W E S S で見つけた生涯の友と私

「あっ、あたしがおまんこのことばっかり書くのを齊成してるんだわ。」って思ってビックリしちゃったの。だって、[WESSに関するここと]なんて注意しているんだもの。とっても恥ずかしくなっちゃった。あたしのおまんこにそこまで気を使うなんて。穴があいたら入れて欲しい。ほんとよ。信じて欲しいの。お願い。

でも一体全体、WESSって何なのかしら？？？ひょっとしてウーンイヤーン
○ソコ○ソコ○のことかしら。まあ、失礼しちゃう。あたしのことそこまで馬鹿にして楽しいのかしら。きっと性格が歪んでるのよ。嬉しいわ。有り難う。

だからって、あたし、そういうことを、いけないって、いってるんじゃないの。あたしがいいたいのは、言語は差異的な体系だというだけでなく、そのような体系自身に対する差異化を含む。言い換えれば自己言及的なシステムである。っていう本当におしつこをもらしちゃうくらい当たり前のことなの。難しくいうと、飛んでも跳ねてもみんな嘘吐きだ、ってことなの。だってあたしたち人間だから一生に一度くらい嘘を突くわよ、なんて血反吐飲むようなことってるんじゃないの。あたしは馬鹿だけどそこまで馬鹿じゃないのよ。ちゃんちゃら濡れちゃうわ。あなたがそんなに馬鹿だから世の中から戦争がなくなるらしいのよ。あたしは平和主義者だし愛煙家だから怒るわ。そんなどから、平和っていう字をみたら、あたし意味も無く浮き浮きするの。平等とか法律とか日本国民とか倫理とか9条とか人に迷惑掛けてはいけないとか沢山あるんだけど、訳も分からず下着が汚れて、いつもママに叱られるの。でも本当は判ってるの。誰も頼んでそうなった訳じゃないの。そんな筈ないじゃない。あたしは《先天的高級人間》だってこと。にも《先天的高級人間》だからって立派だっていってるの。あたしが知的好奇心が旺盛だとか、将来偉い弁護士さんになって小金持ちになるとか、上↑遙れるとかを誇ってるんじゃないの。そんなことは《馬鹿》のすることで、いつもあたしがしていることなの。そうじゃないの。善と惡、上と下、俗と聖、秩序と混沌、ヒデとロザンナなんて二元論的図式はもういい加減で止めて欲しいの。爾の浮くようなイヤミであたしを悦ばしても、戦争はなくなるらしい。

言いたいことがハッキリしてきたわ。そうなの。あたしは、戦争を自分でおこしておいて、それを、さも、国家っていう人が悪い、と思い込んで自分のことをちっとも反省しない人、が大っ嫌いってこと。心の底から憎んでるの。たとえば、こんな文章は親に絶対見せないと決意した人達、こんな文章を全く理解できない人達、こんな文章を全て理解してしまった人達、読んでる途中で考え込んだ人達、あたしが冗談でこれを書いてると思ってる人達、みんな大っ嫌いなの。あたしが愛し合いたいのは、こんな文章を読んでさらに深くあたしを理解して、こんなあたしを御両親に自慢してくれる人だけ。そんな人が、もしいたら、その人は、とってもルパン三世なの。次元や五右衛門や不二子やとつあん、じゃだめなの。なぜって、あの人は自分がDNAの奴隸だってことや、あらゆる存在そのものがイメージだってことや、たった一つを除いてあとは全てフィクションだってことを、知らないフリしてるし、性格は一貫していないとか、自分はコウノトリに運ばれたとか、人は生まれながらにして皆平等だとか、マスコミは反権力機関だ、

法律を破ることは良いことだと、みたいな幻想を背ってるんだもの。恥ずかしくておまんこもまともに見れないわ。なんて書くのは幾ら何でも気が引けるの。だって、まるであたしがアンタンボンみたいじゃない。

あたしは知ってるの。なんでみんなが愛し合えないかってこと。それはとっても宇宙的だし、ホロニックなことなの。こんなこと言ったらまたあたしも天道様に製められてみんなから嫉妬されそうなんだけど、もう中退したから、思い切って言っちゃうの。それはあたしたちがみんな教育を受けてきたからなの。そうなの。海綿体に血が滲みちゃうように、体の隅から隅まで常識っていう優しい顔した加山雄三に犯されて女の悦びを知ってしまったの。赤ん坊のうちにぶつといチンポをずぶりとねじ込まれたの。痛いのは始めのうちだけ。あとは、犯されてるということも忘れちゃうの。それはものすごく気持ちいいんだけども、間違ってるの。幸福なんだけど間違ってるの。でもほとんど100%に近い人達は、もうここから逃げ出せないの。そのことは正しいの。そして脱山出来た人を嫉妬して恨みはじめて、殺しちゃうの。怖~い。野蛮人って死語じゃないの。みんなあたしにとっては鬼に黒棒、野蛮人。だからってわけじゃないけど、抜本的な教育制度の改革、なんて今は渡人だから言えない。でも婆娑に出たらもっと言えない。教育って限り無く透明に近いブルーなの。わたしたちは、すっごく哀しいんだけど、みんなもうほとんど完璧に正しいの。そのことに気付いて欲しいの。あたしのお友達にこんな人がいたの。「僕は小さい頃から母親の顔を知らずに育ったんだ。そして僕が物心ついた頃にひょっこり帰ってきて、隣の若い男とダイナマイト心中したんだ。内臓が木の枝にぶら下がってるんだ。それを見てなんだか分かったんだ。」って飄々と言っちゃうの。そのお友達は茫洋としてて何考えてるんだかちっとも分からないんだけど、写真家として今とっても売れっ子なの。あたし、うなっちゃったの。あたしが彼を理解できないのは、ひとえに教育のおかげだって、思ったの。だってインディアンならきっと彼のこと一瞬で理解しちゃうのよ。教育って、無いと嬉しいけど、有ると鬱陶しい、ほとほと困ったものの。少し寒くなったりせいか、あたしにはそう思えるの。

あたしは時々何時も、怒りちんとうしちゃうの。あたしが教育されてしまったことに。それは決してロリエ=セフティ=ロングでも、多い日には安心じゃないの。でも着けないよりはきっといいだろうと信じてるから。相対的なものだから絶対なの。でもロリエにあまり関係はないのよ。本当よ。

あたし頑張ってWESSについて言ってきたつもりなんだけど、どうなのかしら？みんな道であっても声を掛けてくれるかしら。わけの分からないおまじないを唱えられたり、突然浣腸されたり、銃で撃たれたり、いわれのない罪で死刑を宣告されたり、凌駁されたりしないかしら。とっても心配だわ。

裏をみせ 表をみせて 散る紅葉

良寛

藤沢 裕一 ◇早稲田大学法学部中退 ◇ステマネジャ

卒業文集

Title : カメラとサウンドと俺

名前：前原 明尚 学部・学科：法学部

Section・役職：Speech Section

私のWESSでの生活を振り返ってみたとき、そこには常にカメラとサウンドがあった。（こんなことを書くとまた「ирр！」と言われそうだが・・・）

一年会。この頃は全活動をこなすことに懸命で、忙しかった割には純粋にWESSの生活を楽しんでいた時期だった。せっかく楽しんでいるのならばそれを写真という形で残してやろう、と思い立ったのが事の始まり、以後は衆知の通りWESSの専属カメラマンのようになっていた時期もあった。時には冒険カメラマンを目指しつつ、見事に遭難したこともあり、迷惑な存在となったことも一度ならずあったと思う。今、写真の一枚一枚を眺め直してみると、その時々の様々な苦労や楽しかったことが記憶も新たに甦ってくる。

サウンドに目覚めたのは一年の大夏の時。私なりのこだわりが強く表れた分野であった。四大ドラマの時にもサウンドに所属し、WESSの音の魔術師を密かに目指していたと言ったら笑われるであろうか。今でも忘れないのは、サウンド関係で大変お世話になっていたKIMのスタジオでのMixing合宿、「検察側の証人」川の、「ラジオから流れるニュース」を制作していた時のこと。何とかラジオの雰囲気を出そうと苦労していた時、ふと電話を通してみることを思いついたとき、「これだ！！」と思った。ちょっとした発見がより良いものを生み出す行為に結びついていたのであり、常に目標を高く設定し簡単な妥協を許さない自分の姿勢となっていたと思う。その集大成として自分の中に位置づけているのが三年会の時の大限杯。スピーチセクションの一員、実行委員の一構成員としての仕事だったが、自分なりに満足のゆく結果が得られたと思う。

四年間を振り返ってみると、通常の三活動ばかりでなく、本当に多くの友人の側面に触れられて良かったと思う。ちょっと変人だったかも知れないこの私も充実した四年間を過ごせたと断言できる。願わくは今後とも今まで通りの交流が続かんことを。

このときは やせているなあ 一年会

卒業文集

title, 学館と俺

名前 松尾 周臣 学部・学科 商

section・役職 5 役総務、D r a

お世辞にも新しいとは言えず、当時クーラーも入ってない青い椅子の第一学生会館に対するW E S S 会員の形容は様々だと思うが、自分にとってのそれは“居間”である。本当によく学館へ足を運んだ。夜、床に就いて、朝、起きるまでの時間以外はまさに「時間を惜しんで」学館にいた気がする。日本シリーズで西武が優勝したときも、千代の富士が、貴花田に敗れた時も、大学の3年間の歴史はそこにある。

特に、4月は授業に出てても落ち着かなかった。それは学館で、新入生に「おまえ、俺のファンか?」と聞いて、いつ「はい」と答えるのかを心待ちにしていたからに他ならない。勿論、私は彼女達が、本当にファンになったわけではなく、自分に対する扱い方を覚えたにすぎないことを知っているが、同時に、何度も同じことを聞いても、きんちゃんには「そうねえ、今日もいい天気ねえ」とかわされ、まじょみちゃんには「どうしてそんなことばっかりいうの！」と説教されることも知っている。

学館で出逢えた友人も本当に皆、温かでよかった。煙草もお菓子もジュースも買った人が損するだけで、天下の回りものとなっていくのも下宿生活の自分には、家庭にいるような錯覚さえした。だから、よっちゃんが“おかめ”でいなり寿司を2個買っておいといて、当然の如く私が1個食べ、代わりに百円玉一枚おいて、「キツネが化けた」と言った時、猛然と怒る彼女を見て、今一つその怒りを理解できなかったが、あっつんが買っておいた、おにぎりの“ノリ”を食べた時、彼女が「誰こんなことしたの！信じらんない！」と、米粒が手につかないようビニールを巻いて、怒りながらおにぎりをほおばっているのをいるのを見て、「女の子の穀物だけは絶対に手をだすまい。」と堅く心に誓ったのも事実である。

そんなこんなで9月も過ぎ秋も深まっていく頃、前期によく学館に来ていたW E S S 会員と、最近会わないとふときずく。私が2度と学館で会うこと

がなかった人がたくさん出るのはこの頃である。それでも、いつも「また学館で、」だ。この言葉で自分をごまかしてた反面、またいつでも学館で会えるという自分への言い聞かせみたいなものがこの言葉を使わせる。

3年時の夏、九段下で「逢ふが別れの定めとか、さよならだけが人生さ」（人生劇場）という台詞をいいまわした思い出があるが学館ほどそれをさりげなく演出してくれた場所はないと思う。

そこで一句

時をへて いまはなけれど 我が劇場 思い出さん あほ色とともに
(終、経) (今、居間) (青、阿呆) (友、共)

Q.

- 16: ワカメの好み汁とくるくるの運転、上手いのはどう?
17: 高畠と生垣、ハメをはずすと怖いのはどう?
18: ガツツと志水さん、スホ根の主人公にすことしたうはどう?

A.

- 16: 名前にかけてみただけです。深い意味はありません。
でも、15:5の大差でわかめが勝ってしおとこうに車つ…
17: けこうは、うと思つたが、文則りの“高畠はいつも1番でいる”といふコメントが代表される皆の考え方です。18: 4で生垣 win.
18: 真、すぐにはいかつますかないこの2人。12:8で
志水さん win.

下宿と私

水川 晃、 Debate section 会計
早稲田大学 理工学部 化学工学専修

大学入学して以来、僕は、中野の同じ下宿に4年間住んでいた。言えば、ともに大学生活を歩んで来た友である。部屋を見渡すと、思い出が沢山転がっている。

入学当初は、大阪から持ってきたラジカセと、電話だけであった。ベットに憧れベットを買ったものの、肌に合わず、結局たたんで、玄関の隅に転がっている。また、大学時代に金を貯めて、買い換えるつもりだったラジカセも、結局買えず、持ってきた中学時代からの愛用のラジカセが、部屋のまん中におさまっている。酒に苦しみ、ともに酒と戦ったトイレもまだ健在である。

電気、ガスと止められたこともあり、最後には、水道と止められてしまったこともあった。大学生活で貧困との共同生活も慣れたものとなつた。

増えた物と言えば、同輩、後輩、先輩の置き土産の、酒、カーッペトのシミ、タバコのコゲ、そして、壁に果てある仲間の写真と色紙等であろう。それと、友と過ごした時間であろう・・・。

うーん、しやわせ。

Joh Miyakawa
1993.3.10

卒業文集

Title: 早稲田大学英語会 と私（俺）
名前 銘刈 一郎 学部・学科 社会科学部社会科
Section 役職 Speech Section

ある友人が、ESSと自分の関係をテニスラケットとボールに例えて、自分がESSという壁に打つそのボールが強ければ強いほどはねかえってくるものは大きく手ごたえがあるものだと思う！と言っていたのが非常に印象的でした。実際自分の気の持ち方とやり方次第で、手にするものが変わってしまう経験が何回かありました。そういう意味では、WESS 4年間の中でもっといろいろなことができたのにとつくづく思います。

活動を振り返って見て、特に自分の思い出に残っているのが2年の時の大夏合宿と四大ドラマで優勝したこと、そして3年時の大夏合宿でした。皆で一緒に作りあげたという充実感がとてもよかったです。

しかしそれとともに、一緒にやった人達が皆本当に素晴らしい人ばかりでした。3年の時のスピーチセクションの皆と、大隈杯までできる限り本当によく頑張ったと思います。スピセクの人達抜きに3年会の話はできない位です。この場を借りて、本当にどうもありがとうございます。また自分の出身の高円寺ホームのメンバーにははっきりいって感謝の言葉も見つからないくらいです。いつもお世話になりっぱなしでした。（徹夜のときだけはこれからも多分治らないと思いますが？！）

とにかく、自分がもしもう一度新入生として大学にはいったとしたら、もう一度早稲田大学英語会を選ぶと思います。皆さん本当にどうもありがとうございます！！ 最後に一句！

早稲田大、ESSよ、永久にあれ！

（◎）締め切りと私

教育学部社会科学科・Speech sec. chief 素菜 春菜

私は今、二つの締め切りに追われています。予想外にカゼをひいてしまい。卒業文集どころではないのですが、まあ、しかたがありませんので急いで書いてしまいましょう。思えばWESSではいつも締め切りに追われていました。計画性が無いとか、浅はかだとか言ってしまえばそれまでですが、全くその通りだと思います。ギリギリまで自分を追い込んでしまうのは、精神的にも肉体的にも私にとっては良くないのだなあ、とつくづく思いました。

その証拠に今年は12月25日迄に年賀状を出し終わったら、なんと余裕のあるリッチな（？）年末を送れたことか・・・。年賀状はクリスマス前に済ますに限る！と思いました。本当に。

これからは、上に書いたような、WESSで学んだことを生かして、より幸せな生活を送っていこう、と思いつつ筆を置きます。みなさんも幸多い人生をお送り下さい。

Q.

19：浜田とせんちゃん、ケンカすると言葉に迫力があるのはどちら？

20：よちゃんの絵と杉山の似顔絵、スコイのスピーチ？

21：鹿島と渡辺、人前で無口なのはどちら？

A.

19：2人共、ADでドスをきかせてました。リハ中、Castの「ティー」という声が聞こえてくるという噂もありながらウソでなさそうですね。14:57 浜田 win.

20：ゴッホ対ルノアールのような対決。2人の絵には皆が世話をになりました。17:6 杉山 win.

21：内に秘めたるものを持つ2人。“ピクタと人による”という津ニフコメントが適切か。13:5 渡辺 win.

22：（必見？）

上條ヒリンカーン、ゲティスワ speech 上手いのスピーチ？知名度の高いヒリンカーンと、賞給ナメの上條ウスピード、オラコンクテー：上條モデルアレイをよく思い出して、皆さんで選んで下さい。

松の湯と私

政治経済学部政治学科・DEBATE SECTION

TIDL渉外・山口 恵未

西門を出て、早稲田駅の方へほんの少し戻ったところに松の湯はあります。大学3年の春はじめて”銭湯”というものに行きました。その後12月までほぼ毎週のように土曜日の夜に通ったのがこの松の湯です。

Deb. Sec. の合宿は大抵、金曜から日曜にかけて行なわれます。但し、金曜に泊まつただけですんでしまうことがあります。(負けて日曜に試合がない場合です。) そういう意味では毎週のように土曜日に銭湯に行かれたのは幸運だったのでしょう。

銭湯に行くのは大抵(たぶん、いつも)1人きりだったので銭湯への往復約1時間はDebateのことを忘れ、気分を一新するのに大変役立っていました。けれど、この銭湯生活も次第に変化しました。”きむら”や他で合宿している他大のDeb. Sec. の銭湯仲間になったのです。はじめは、軽く挨拶を交わす程度だったのが、1年の終わりにはすっかり仲良くなっていました。Debateの話だけでなく、学校やWESSの話ができるようになるとはSectionに女性1人でなんとなく心細いこともあった私にはうれしい驚きでした。

大夏、四大、オラコン、マネージ、WESSの様々な行事でうれしい思い出、悲しい思い出、たくさんできました。喜びのあまり、泣いたことも何度かありました。高校生までの自分なら考えられないことで、WESSでの活動を通じて随分と自分が変わったのだと感じます。そのWESSの活動の中で松の湯の占める部分はほんとうに微々たるものです。

大変な日数と人手をかけて行なわれる四大に私のWESS生活を例えたならば、松の湯は数ある小道具のうちのひとつそのまた一部分程度にしかならないでしょう。

にもかかわらず、その松の湯のことすら書ききれないのです。こんなに沢山で貴重な思い出を与えてくれたWESSとWESSのみんなに会えて本当によかったです。

そこで感謝の意をいっぱい詰め込んで一句、

”ありがとう 四年分の 想いこめ”

W E S S 1989~1992

法学部 五役会計 D R A M A
山田 隆史

TOKYO 1989

僕達は巣に戻りそこねた
魚だった

闇に溶けてゆく
時計塔の下
有機的なコトバの羅列
自由を欲した人々は
いつしか
自由の囚われ人となった
そして
君のポケットには
あふれんばかりの
使い古された硬貨

震える月の光の下
君は良くて街へ出た
街へ出て街路を歩いた
時には僕と
時には僕ひとりで
国道沿いの街路樹
坂道の途中のガソリンスタンド
真夜中から朝に
届けるつもりだった
バラの花束は
巨大なゴミ箱に
捨ててしまった

愚かな雨の降る6月
誰かのアパートメントの窓辺
つけっ放しのTV
散歩しよう
広場に向かって
専制君主の目を盗み
兵士たちが眠っている間に
カプチーノよりも濃く
エスプレッソよりは薄く
混ざりあい
泡だちあう
夜
しばらくはこのまま
散歩しよう
冷たい大理石で造られた
あの広場に向かって
まったく
君や彼や彼女や僕を囲む世界は

なぜいつもこんなにも
ノロマにしか歩めないのか

君は 西側の壁にもたれ
僕は 東側の壁を見上げる
毎秒 地上にこぼれ落ちる
公平な月の光
闇に浮かぶ水銀灯
ちょいと
百個目の魂が
夜の子宮から生まれ出た頃
壁は倒れ
そして 再び
自由は 積み重ねられていく

柔らかな雨に濡れた午後
通り沿いの石段に立ち
出来る限り
抽象的な エンギ
街中の屋上で 階段で
裏道で 空き地で
人のいない高架下で
最終の地下鉄待つプラットホームで
ブルーのパークに
くるまつたまま
眠りつづく君は
落着してまるで
甘い岩を受け止めてしまった

台風が通りすぎた後の
夕暮れ
錆ついた看板
海沿いに走る私鉄
悲しげな遮断機
夏のにおいの残る砂浜で
ボール遊びをする子供達
そのうち
満月の堤防で
君は柔らかなメロディ
陽は沈み
君が波打際を歩くなら
まして それが独りぼっちなら

秋の風
君が麦畑に佇むなら
まして 高い空を見上げているなら

街に出て
君がパン屋を横切るなら
まして 腹をすかしているなら

この街に
ここに
この世界に
あふれださんばかりの
キミ

TOKYO 1990

僕は言う
朝食のコーンフレークは時々
馬のエサのように感じてしまう
君は応える
コーンフレークでも何種類か混ぜると
少しはマシになるぜ
そんなこんなで二月の朝に

手のひらの薄紅
はらはらととして
さらさらさるからんをくぐり
揺れる丘を駆け下りる
夢中でそれでも
君の手は
ポケットの中

地下鉄の駅の
長いエスカレーター
動かない高速
そしてインク色の海
低いビルに溶けてく
五時頃灯るタワー
海沿いの遊園地
そして鉛色の空
その中のペリカン
孤独な前夜明け
誰も知らない間に
川の最後のコト使
君のいり減りされ
使すとこれとまで誘惑されたから
とそれで欲しく
と迷子のツグミ
高貴な一輪のヒナゲシ
君に気付けばよかったです
双子のコマドリ
ゴールデンフィッシュ

真夜中のキッチン
冷蔵庫の中の
食べかけのピザ
三段目のレタスの
品質保障ラベル
そして
小さなキリスト
ああ
僕は君から はみ出している

ある完全な午後
完全に築かれた法廷だけが
完全に晴れた空の下
完全に取り残されている

TOKYO 1991

僕は 三日間考えた
四日目の朝
朝食の時
トースターから ポンと
パンがはじけとんだ瞬間に
こんなコトバが浮かんだ
Net work
—編みめぐらされた神経細胞—
今や巧妙に装う
水路の番人たち
彼等に伝えてくれ
何もないんだ
賠償すべきものなんか
僕はもうじゃない
金持ちじゃない

徹夜続きたの翌朝
雨に打たれて
君はただ
濡れていいたくて
君は正しくて 僕はまちがい?
いつでもくても 僕はまちがい?
いつでもくても 君はまちがい?

緑の風に 木々のざわめき
今夜は特別に 塩水で
パンパンに膨れ上がった
冷たい満月
ずっとさつきから
桟橋近く 腰をかけて
君は 真昼の夢のかけら
拾い集める

夏草のにおい
錆びたペダル
風に揺れるヒマワリ
静寂に佇むプラットホーム
さあ
心が癪え始めたなら
ボンネットに
満月のせて
湖の向こうまで

その時 君は知る
前ぶれもなく
あいさつもなく
問い合わせが逆になることを
数字の2は1たす1に
インクは水と植物に
コップは砂と炎に
闇は夢と眠りに
オムレツは卵と太陽に
そして 君は 無に戻る

TOKYO 1992

冬のパレードの翌朝
とても早く
疲れぬ夜を諦めて
ひとり公園の側の歩道橋に
光が満ちてくるまで
街は眠らない
僕は眠れない

ポケットには長い長い手紙
友達からるのは
読み返すのは
これで
君もようやく
あるがままを受け取る時が来た
君がやまってきたけれど
些細ではあつたけれど
確実に冒険であったひとつひとつを
おおざっぱな君は
忘れているかもしれない
けどね・・・

この街に暮らして
二年の月日が流れた
君と出会ったこの街もしまい
すっかり変わった風景も
あの丘から見えるビルに
新しい銀行のビルに
かき消されてしまった
韻を踏むだけの生活に
アンニュイを覚えない連中には

全てが 偽りだ
君は どこにいるのか?
僕は 今 どこにいるのか?

通りには
借家の掲示があふれ
誰かの家の窓辺では
鉢植えの花が
折れたままになっている
重く響く
冷蔵庫のモーター
そんな時
僕は いろいろな事を考える

人はなぜ バラや音楽に 時と金を費やすのだろう?

この答えを探しあてるのは
簡単じゃない
この春
君は この街のどこから
砂金をすくい取るために
旅に出る
再び 又再び

君が もし
かつて両の手にすくった砂金
あれはただの石炭だったのだ
と思い込もうとしているとしたら
なんて悲しい事だろう
かつて
君が出発した日
君の部屋の壁には
どんな写真が
飾られていたのだろう

また 次の季節は訪れ
いつものように コマドリは鳴き
金色をした魚は
澄んだ水を得意気に走る
君は念入りに
旅の準備を
始める

今夜は
僕は君と共に
ささやかな叙事詩を
唱う

Lion and New Generation
inspired These Words
in Me

山田 隆史君と私

教育学部社会科社会科学専修/Chief of Debate Section'91
吉田 武平

俺が山田と知り合いになったのは、2年のときの夏、一緒にディベパンをつくったときだった。”ディベパンズ”はみんなやるきがあって、何か本当に楽しかった。

それから半年後の12月24日、五役を決めるとき、俺は「山田が体調を悪くしてできなくなつた仕事は全部俺がやるから、五役を引き受けてくれ」と泣いて頼んだ。五役の決め方が不自然だったにしろ、常に自分のことよりみんなのことを考える山田にWESS'91を引っ張っていってもらいたいという気持ちで一杯だった。今でもあのときのことははっきり覚えている。

しかし、実際に3年会がスタートすると、自分もDeb. Chiefで忙しくなつて、山田が体調を崩して休んでいるときも、自分が五役会に出るわけにもいかず、Deb. Sec. をまとめることが、WESS全体を目標に近づけることになれうのだから・・・などと勝手に考え、毎日が過ぎていった。

唯一ほつとしたのが、俺も山田も初めて行った大夏のときだった。スイカは両班あまりとれなかつたけれど、本当に盛り上がつた班歌大会のあと、俺はモンペ姿みたいなハットリ君のコス、山田はウエディングドレスのコスを着て、班長をやれてよかつたと握手したときだった。あの時は本当に感動した。でも結局1年間山田には何も手伝つてあげることができなかつた。

WESSを4年間やってきて、自分の言葉の無責任さ、自分の未熟さを痛感した。山田への感謝の気持ちは言葉では言い表わせない。彼だけでなく、尊敬し信頼できる仲間とWESSの活動をともに頑張ってきたことを最近になって本当によかつたと思えるようになった。自分は不器用だからいつもはうまく伝えられないけれど、卒業文集をかりてみんなに感謝したい。ありがとう。

そこで一句、社会人になってもKeepしつづけたい
アイデンティティを。「いつまでも、謙虚な気持ちと爽やかさ」

◎ 女装と俺

法学部・Drama sec. 渡辺 康仁

私が自分の美貌に初めて気付き、目覚めたのは、小学校4年生のときでした。ある機会にクラスで浦島太郎をやることになり、乙姫の希望者を募ったところ、女の子達がみんなためらっていたので、つい「先生俺やります！」としゃしゃり出てしまったのが運の突きでした。先生もおもしろがって、他のクラスメイトにも異論があろうはずもなく、マジで、タイやヒラメ達と乙姫を演じたのです。

それから10年近いブランクを経て、次にめぐってきたチャンスが大学2年のチアマンエンタテでした。新宿の喫茶店に集まり皆で案をつぶし合いして誕生したのが麗しのマダムやす子です。お陰様で皆さん的好評を得、「きれい」と言われることを心の底から喜び、すっかり調子に乗ってしまい、続けざまにその年の大夏において、ローマインをその語源とするチョーボインそして文則とのコンビによるダンサーと、ヒット作を飛ばしました。

その後1年程開店休業状態を経た後に、学生時代最後の晴れ舞台となったのが登山隊長として臨んだ大夏オリエンです。晃と山といえばハイジ、という強引なリンク付けをし、（実は2人とも女装目当てでした。）地下食で練りに練ったネタをかわいいクララと披露しました。これが期待した以上に受けて、こちらとしても熱演した甲斐がありました。大夏の色紙に「私はあのハイジを見て大夏に行くことを決めました」という1年生の声を見つけた時には、芸人冥利につくるとはこういうことだとしみじみと嬉しさをかみしめたものです。

最後になりましたが、今の私がこうしてあるのもやはりファンの皆様のお陰です。皆様の温かい励ましや時には厳しいお叱りが私をここまで大きく育てあげてくれたのです。ここに感謝の気持ちを表するとともに今後の皆さんの益々の御発展をお祈りして筆を置きたいと思います。

そこで一句 パンストの 感触いまだ 忘れ難し
 次の出番は いつになるのやら

学館で出会った人々と私

河西 岳

大学生活の大部分を学館のいすで過ごすことができたのは、私にとって貴重な経験になった。学館で多くの人と山会うことができたからだ。それらの出会いを通じて、喜び、怒り、哀しみ、楽しみを味わえたことを嬉しく思う。毎日とはいわないまでも、何かしら起きる日々だった。振り返って見れば、やはり青春の日々だったといえるのではないだろうか。というのも、時々自分の年齢を忘れてしまうことがあったからである。いろいろなことがあったが振り返ってみたときに、楽しかった思い出が頭に浮かぶということはうれしいかぎりである。友に恵まれ、人物に会い、酒を酌み交わし、肩を組んで歌い、時間を共にすごす。ほかに何がいるのだろうか。

これからは、それぞれの道を歩くことになる。いつか、どこかで、再び会うことがある。その時、お互いの目を見ることにしよう。まっすぐ見られないなら、私が罵ってやろう。私の目がくもっているなら、学館にいたときのように活をいれておくれ。その後にでも思い山話をしようじゃないか。夢を話そうじゃないか。ネエ。

感謝

思い出は様々なれど交わりは 彼れとともに我れとともに

WESSと私

小久保 卓一

元気ですか。

2年の終りから学館に足を運ばなかったのですが今回、松尾君からこの企画を聞き、是非何かを書いてみたいと思い飛び入り参加することになりました。

というのも、WESSのみんなともう一度同じ活動をしてみたいというときめきを覚えたからなんです。

3、4年次の二年間はほとんどの時間を法学部の入っている8号館で過ごしました。ですから、大学時代4年間の前半をWESSで後半を学部で、という具合になります。

このような学生生活周期はWESSの活動が3年間を通じてのものであるものですから、2年の終わりに、いざ実行に移した時には（特にみんなが推してくれ大事な役職に就いた場合、そのようなとき実行に移すことはとんでもないといえるのだけれど）みんなに迷惑と、ときには不快を与えることになったであろうと思います。自分自身そのことはいつでも忘れてはならないことと心に留めて来たつもりです。

でも自分の申し訳ないなあ、悪かったなあという気持ちは過剰なものだったとさえ思ってくれる程自然な態度をみんなはみせてくれ、友として接してくれました。

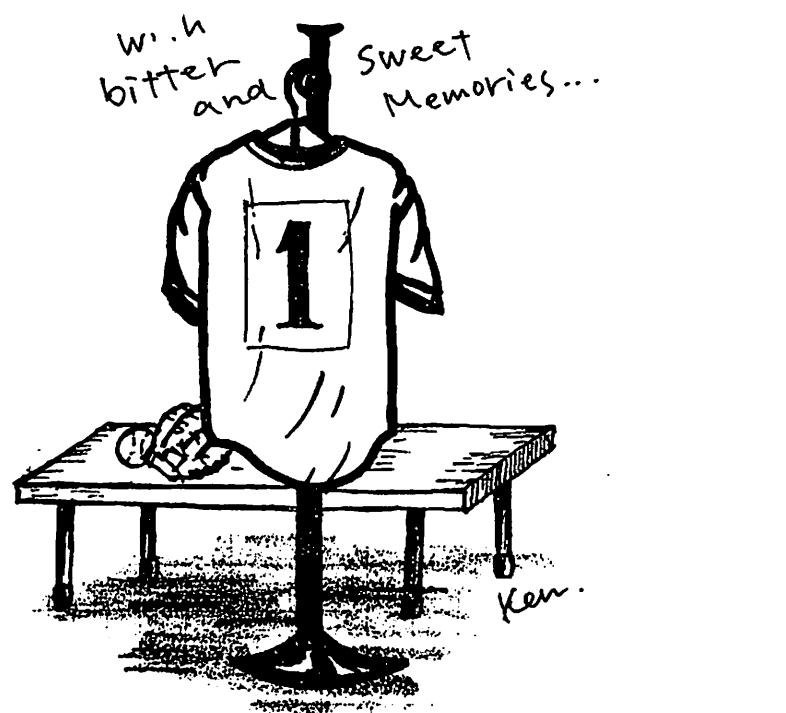
このことは非常な喜びであったし、前へ進む原動力ともなったのです。3年次から、学部へ生活の比重を移したことをプラスの面からとらえてくれたのだと理解しています。

今こうしてまたWESSの企画に参加しようとペンを走らせているのもこうしたみんなとのつながりを保てていたことのおかげだと思っているんです。

たとえ、実際にWESSを支える柱の一本にならなくなつたとしても道ですれちがったときに声をかけあうことができるのならまだWE

SSの枠のなかにいるというのは都合のいい解釈なのでしょうか。やはりWESSは去りがたいものです。





name _____